

子供のキャリア観と 親の働く姿に関する調査 (高校1-3年生編)

株式会社アイデム

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-4-10 アイデム本社ビル

お問い合わせ

広報担当 / 望月・栗木

調査担当 / 岸川・古橋

電話 03-5269-8780

kouhousitu@aidem.co.jp

目次

調査概要		・・・・・・・・	p . 3
1	大人調査	親の労働時間	・・・・・・・・ p . 4
2	大人調査	親の年収	・・・・・・・・ p . 5
3	大人調査	父親の仕事の充実度	・・・・・・・・ p . 6
4	大人調査	母親の仕事の充実度	・・・・・・・・ p . 7
5	大人調査	家族揃っての食事回数	・・・・・・・・ p . 8
6	大人調査	子供との会話時間	・・・・・・・・ p . 9
7	子供調査	父親との会話量	・・・・・・・・ p . 11
8	子供調査	母親との会話量	・・・・・・・・ p . 12
9	大人調査	家族との会話の内容	・・・・・・・・ p . 13
10	子供調査	父親の仕事を知っているか[有職者]	・・・・・・・・ p . 14
11	子供調査	母親の仕事を知っているか[有職者]	・・・・・・・・ p . 15
12	大人調査	配偶者の仕事を知っているか	・・・・・・・・ p . 16
13	子供調査	父親の働く姿を見たことがあるか	・・・・・・・・ p . 17
14	子供調査	母親の働く姿を見たことがあるか	・・・・・・・・ p . 17
15	子供調査	働く父親は楽しそうか	・・・・・・・・ p . 18
16	子供調査	働く母親は楽しそうか	・・・・・・・・ p . 19
17	子供調査	働く父親を「すごい」と思うか	・・・・・・・・ p . 20
18	子供調査	働く父親を「すごい」と思うか	・・・・・・・・ p . 22
19	子供調査	働く父親への憧れ	・・・・・・・・ p . 24
20	子供調査	働く母親への憧れ	・・・・・・・・ p . 26
21	子供調査	将来働くことは楽しみか	・・・・・・・・ p . 28
22	子供調査	将来の夢はあるか	・・・・・・・・ p . 30
23	大人調査	子供に将来なつてほしい職業はあるか	・・・・・・・・ p . 32
24	子供調査	将来なりたい職業	・・・・・・・・ p . 33
25	大人調査	子供に将来なつてほしい職業	・・・・・・・・ p . 33
26	子供調査	将来その職業になりたい理由	・・・・・・・・ p . 34
27	子供調査	将来なりたい職業に就くための努力	・・・・・・・・ p . 35
28	大人調査	家庭で行っているキャリア教育	・・・・・・・・ p . 36
29	大人調査	親の働く姿を見せることの是非	・・・・・・・・ p . 37

調査概要

調査目的

親の働く姿と子供のキャリア観への影響について調査する

調査対象

高校1年生から3年生の子供を持つ男女で、子供と一緒にアンケート回答が可能な者

調査方法

インターネット調査

調査期間

2018年6月14日～17日

有効回答

758名

回答者内訳

大人性別	n	%
男性（父親）	483	63.7
女性（母親）	275	36.3
計	758	100.0

大人婚姻状況	n	%
既婚	709	93.5
未婚・離別・死別	49	6.5
計	758	100.0

子供性別	n	%
男子	393	51.8
女子	365	48.2
計	758	100.0

大人職業	父親の職業		母親の職業	
	n	%	n	%
正社員	589	81.2	137	18.5
契約・嘱託社員	17	2.3	30	4.0
アルバイト・パート	13	1.8	314	42.3
派遣社員	3	0.4	15	2.0
その他非正規	10	1.4	5	0.7
自営業・フリーランス等の個人事業主	84	11.6	19	2.6
無職	9	1.2	222	29.9
計	725	100.0	742	100.0

父母の就労状況	n	%
共働き家庭 A （父母とも正社員または自営業）	126	16.6
共働き家庭 B （父母の1人以上が 正社員・自営業以外の働き方）	352	46.4
専業主婦/夫 家庭 （父母のいずれかが無職）	231	30.5
シングル家庭 （父または母が雇用形態に かかわらず有業）	49	6.5
計	758	100.0

留意事項

- 本調査における「子供調査」は、回答者（大人）による代理回答である。
回答者（大人）には、調査時に同席している子供に質問をし、その回答を聞いて記入するよう指示している。
- 調査票では、基本的に「父親」「母親」という表記をしていない。各設問においては「あなた（回答者本人）」「配偶者（回答者の配偶者）」の項目を設けて質問し、それぞれの回答を回答者の性別によって以下のように分類・再集計し、「父親」「母親」のデータを算出している。
なお、配偶者については既婚の回答者のみに聞いている。

父親： [A：男性回答者における「あなた」の項目の回答] + [D：女性回答者における「配偶者」の項目の回答]
母親： [B：男性回答者における「配偶者」の項目の回答] + [C：女性回答者における「あなた」の項目の回答]
- 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている。
- 本調査は回答割合の表示において小数点以下第2位を四捨五入しているため、結果が100.0%にならない場合がある。
- 「平均回答個数」とは、複数回答形式の設問において各回答者が回答した選択肢の個数の平均を示す。

親の労働時間

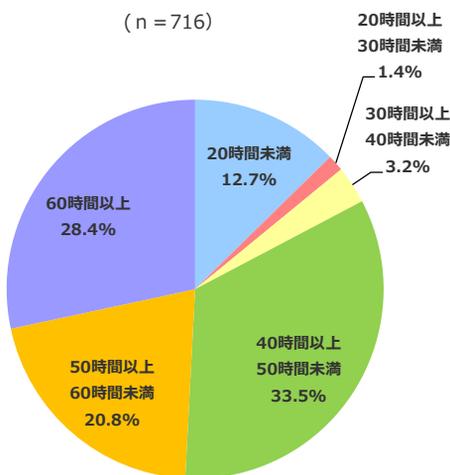
高校1-3年生の子供がいる家庭に、有職の父親と母親の1週間の労働時間（通勤時間や持ち帰り仕事、仕事の準備等を含む）を聞いた。

父親が有職の家庭では、父親の労働時間は「40時間以上50時間未満」が33.5%と最多を占めた。次いで「60時間以上」28.4%、「50時間以上60時間未満」20.8%となっている（図1.1）。

雇用形態別に見ると、「正社員／自営業・個人事業主」と「非正規雇用」ともに「40時間以上50時間未満」が最多となっている。とは言え、「正社員／自営業・個人事業主」では33.2%、「非正規雇用」53.5%と割合には差がある。「60時間以上」の割合は、「正社員／自営業・個人事業主」では29.1%に上る一方、「非正規雇用」では16.3%となり、「正社員／自営業・個人事業主」の方がより長時間労働となっている（図1.2）。

母親が有職の家庭では、母親の労働時間は「20時間未満」21.7%、「20時間以上30時間未満」25.2%と30時間未満の時間で働いている母親が半数近い（図1.3）。雇用形態別に見ると、「正社員／自営業・個人事業主」の母親の場合、「40時間以上50時間未満」のフルタイムで働いているであろう母親が40.4%に上った。父親の「正社員／自営業・個人事業主」の場合、50時間以上の回答割合が50.5%に上るのに対し、母親の場合は32.0%となっており、同じ働き方でも父親の方が長時間労働となっている。また、「非正規雇用」の場合は、6割近くが30時間未満で働いている（図1.4）。

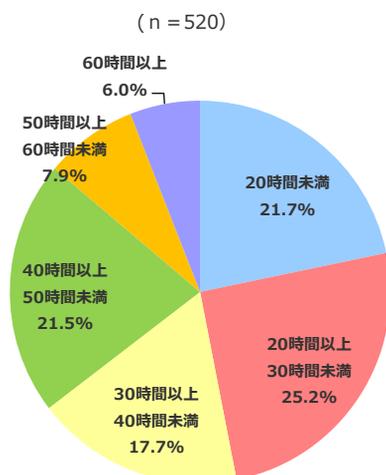
【図1.1】有職の父親の1週間の労働時間



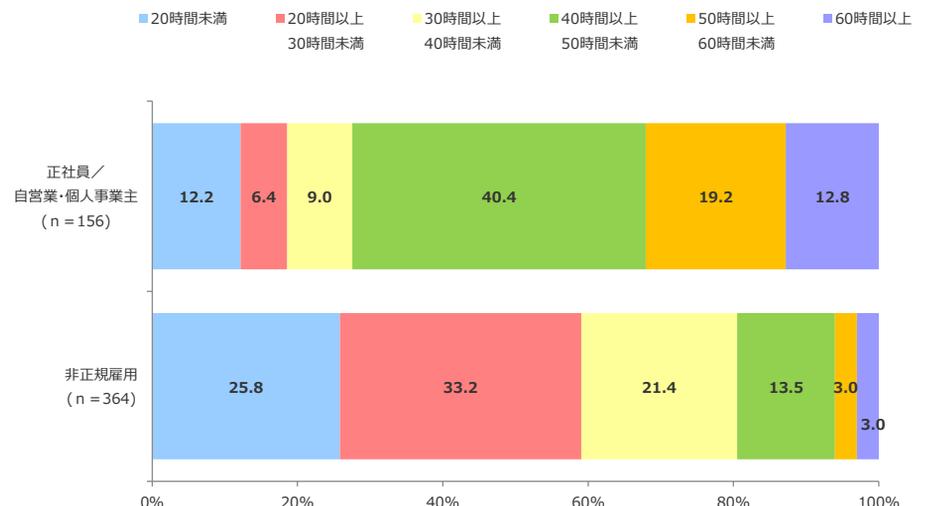
【図1.2】有職の父親の1週間の労働時間：父親の雇用形態別



【図1.3】有職の母親の1週間の労働時間



【図1.4】有職の母親の1週間の労働時間：母親の雇用形態別



親の年収

高校1-3年生の子供がいる男女に、有職の父親と母親の年収を聞いた。

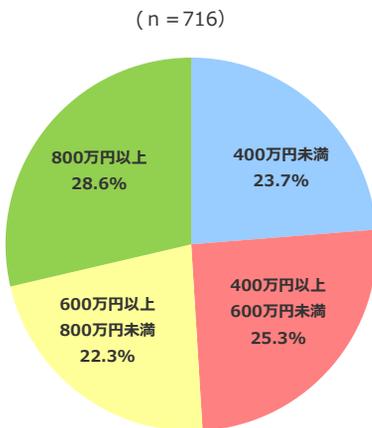
父親の年収は、「800万円以上」が28.6%で最も割合が高い。次点は「400万円以上600万円未満」で25.3%だった（図2.1）。雇用形態別に見ると、「非正規雇用」は「400万円未満」が58.1%と6割近くを占めている（図2.2）。

母親の年収は、「103万円以下」が39.2%を占める。「103万円超150万円未満」も21.7%となっており、配偶者控除や第3号被保険者になれる範囲の収入の者が60.9%を占めている（図2.3）。

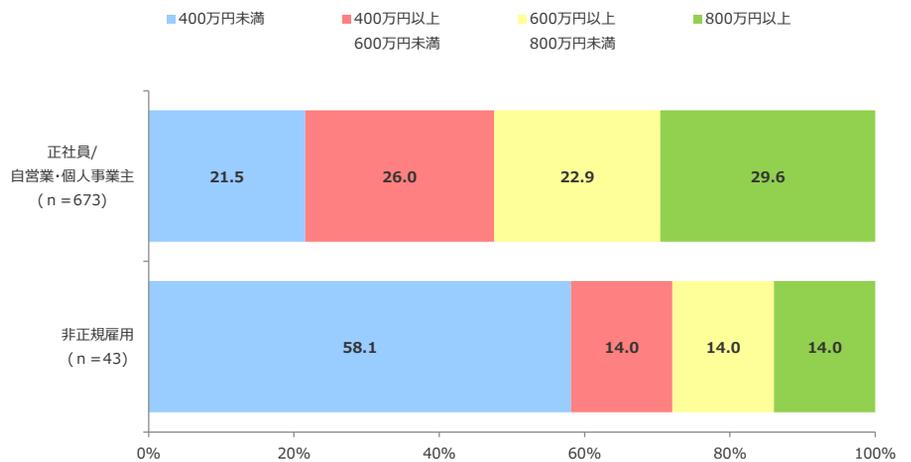
雇用形態別に見ると、「正社員／自営業・個人事業主」は、150万円未満の年収帯の回答割合が「非正規雇用」よりも低く、43.6%は年収400万円以上となっている（図2.4）。

父親と母親では、同じ雇用形態だとしても収入に開きがあり、父親の方が高い年収帯の回答割合が多い傾向にある。

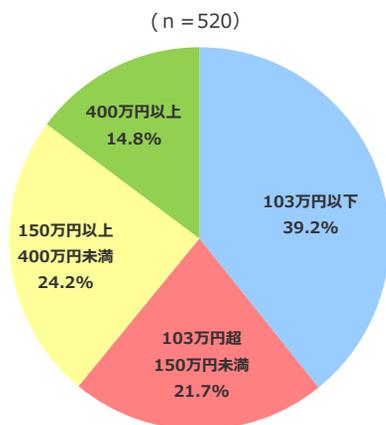
【図2.1】父親の年収



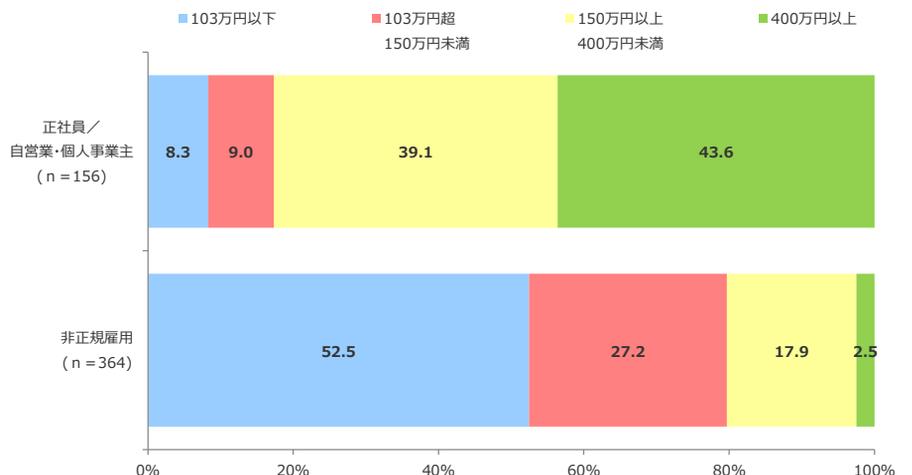
【図2.2】父親の年収：父親の雇用形態別



【図2.3】母親の年収



【図2.4】母親の年収：母親の雇用形態別



父親の仕事の充実度

高校1-3年生の子供がいる男女に、父親の仕事（※1）の充実度（※2）を聞いた。「充実している」16.1%、「どちらかと言えば充実している」55.0%となり、父親の仕事が充実している家庭が71.1%となった（図3.1）。

就労状況別に見ると、「正社員／自営業・個人事業主」「非正規雇用」「無職」の順に充実度（「充実している」と「どちらかと言えば充実している」の計／以下同）が高くなっている（図3.2）。

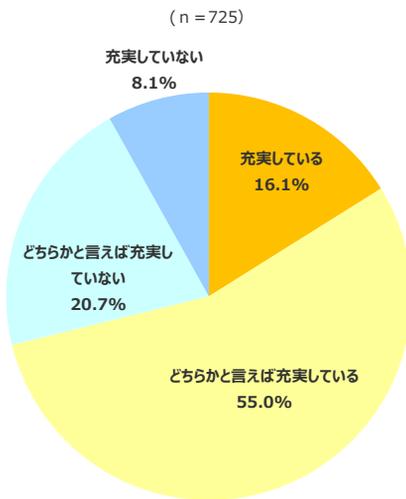
有職者について「大人調査：親の労働時間」との関係を見ると、「30時間以上40時間未満」から「50時間以上60時間未満」までは、労働時間が長くなると充実度も緩やかに高くなる傾向があった（図3.3）。

さらに、年収別に見ると、年収が高くなるほど充実度も概ね上がっていく傾向があった（図3.4）。

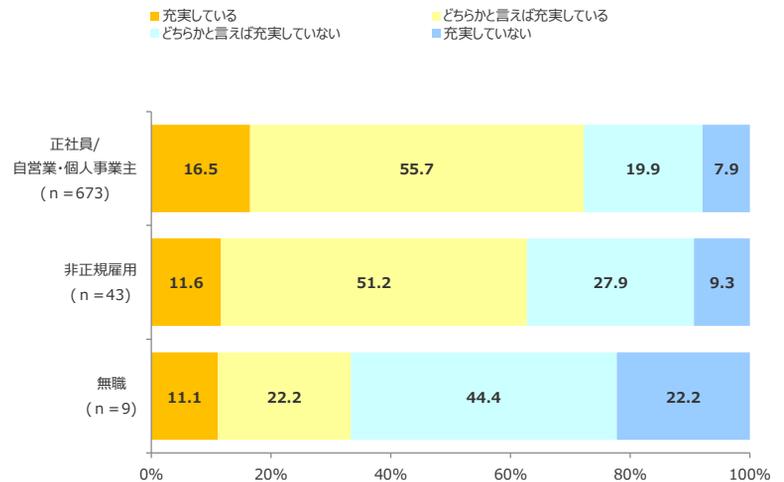
※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

※2 回答者が女性の場合は、「配偶者はどのように感じていると思うか」と聞いている

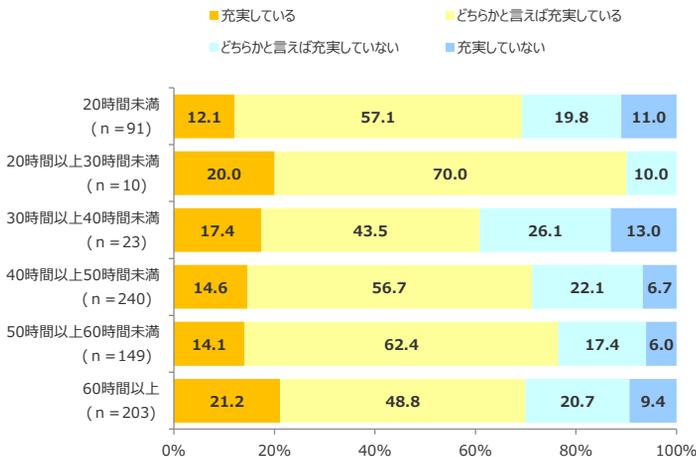
【図3.1】父親の仕事の充実度



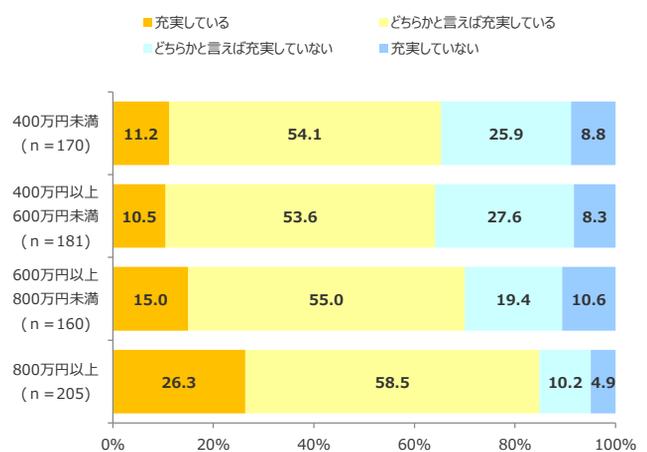
【図3.2】父親の仕事の充実度：父親の就労状況別



【図3.3】父親の仕事の充実度：有職の父親の1週間の労働時間別



【図3.4】父親の仕事の充実度：父親の年収別



母親の仕事の充実度

高校1-3年生の子供がいる家庭に、母親の仕事（※1）の充実度（※2）を聞いた。「充実している」15.0%、「どちらかと言えば充実している」55.8%となり、母親の仕事が充実している家庭が70.8%に上った（図4.1）。

就労状況別に見ると、「正社員／自営業・個人事業主」の場合、充実度は79.5%となり、最も高い。また、「無職者」の充実度は62.7%となり、33.3%だった父親の場合とは大きく異なり、家事等に対しても充実感はあるようだ（図4.2）。

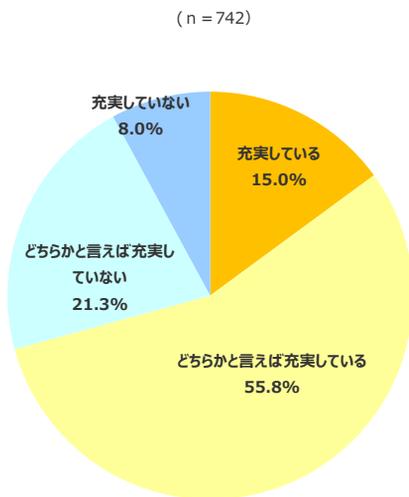
有職者について「大人調査：親の労働時間」との関係を見ると、「充実している」と感じている割合は「60時間以上」が38.7%で最も高い。（図4.3）。

年収別に見ると、「400万円以上」の母親は「充実している」が32.5%と他の年収帯の母親よりも大幅に高い。充実度は、年収が上がるにつれ高くなる傾向があった（図4.4）。

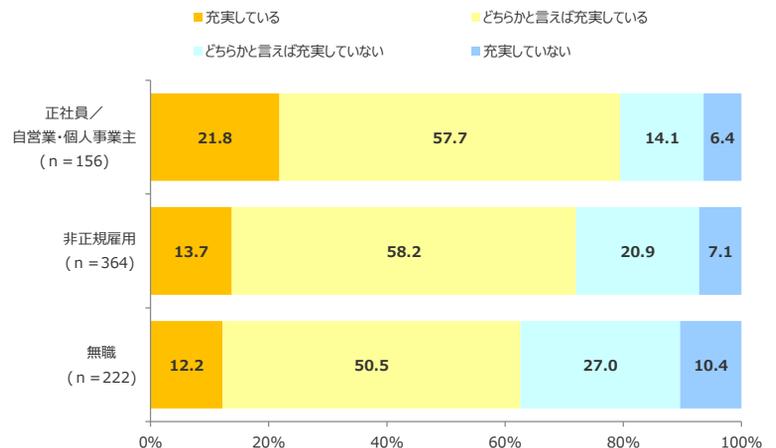
※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

※2 回答者が男性の場合は、「配偶者はどのように感じていると思うか」と聞いている

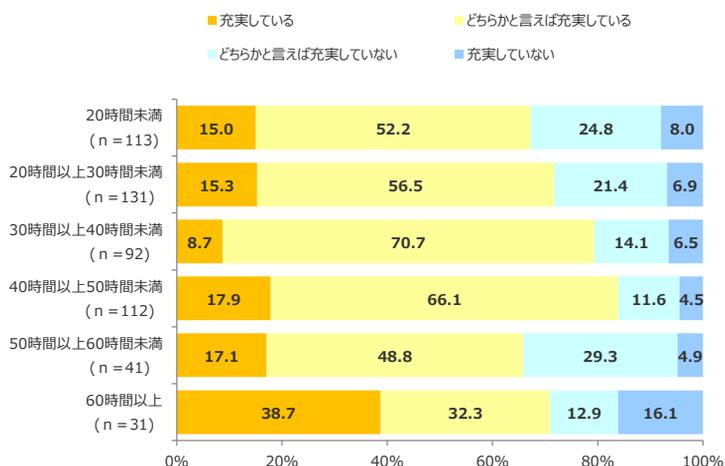
【図4.1】母親の仕事の充実度



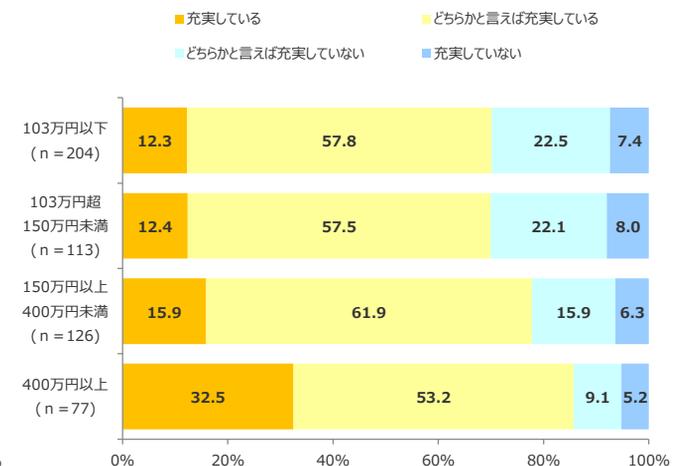
【図4.2】母親の仕事の充実度：母親の就労状況別



【図4.3】母親の仕事の充実度：有職の母親の1週間の労働時間別



【図4.4】母親の仕事の充実度：母親の年収別



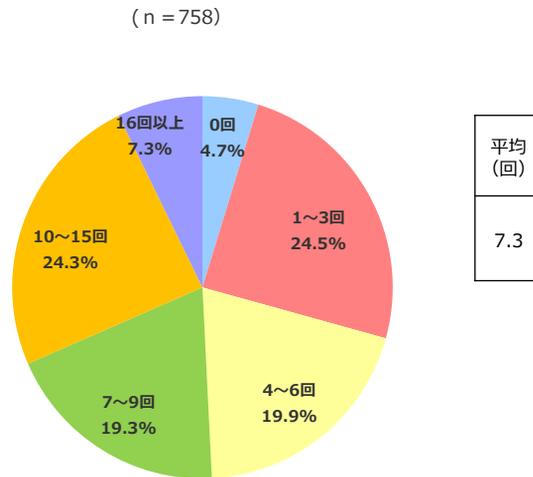
家族揃っての食事回数

高校1-3年生の子供がいる男女に、家族（※1）が揃って食事をする機会は週何回くらいあるか聞いた。平均は7.3回となっており、家族揃っての食事は1日1回程度の家庭が多いようだ。一方、「0回」4.7%、「1～3回」24.5%、「4～6回」19.9%となっており、家族揃っての食事が1日1回以下という家庭も計49.1%ある（図5.1）。

家庭状況別（調査概要参照）に見ると、「シングル家庭」「共働き家庭A」では、平均がそれぞれ9.2回、8.3回と他よりも回数が多くなっていた（図5.2）。

※1 既婚者は自身と配偶者と子供、シングル家庭は自身と子供のこと。子供は複数いる場合は1人以上同席していればカウント可としている。

【図5.1】 家族揃っての食事回数



【図5.2】 家族揃っての食事回数：家庭状況別



子供との会話時間

高校1-3年生の子供がいる男女に、子供との会話時間（1日平均）を聞いた（※1）。

※1 有職者は「労働日（働いている日）の平均」と「休日の平均」について、無職者は「毎日の平均」について聞いている

【有職者】労働日の子供との会話時間

有職の男女の労働日における子供との会話時間の平均を聞くと、全体では「30分未満」42.7%、「30分以上1時間未満」29.8%、「1時間以上2時間未満」19.9%、「2時間以上」7.6%だった。

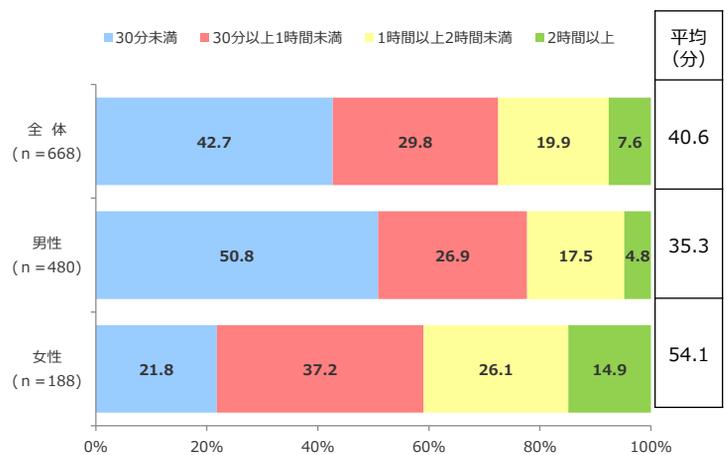
男性は「30分未満」50.8%、「30分以上1時間未満」26.9%と、1時間未満が約8割に上る。一方、女性は「30分以上1時間未満」37.2%、「1時間以上2時間未満」26.1%となり、女性の方が子供との会話時間が多い（図6.1）。

1週間の労働時間別に見た。

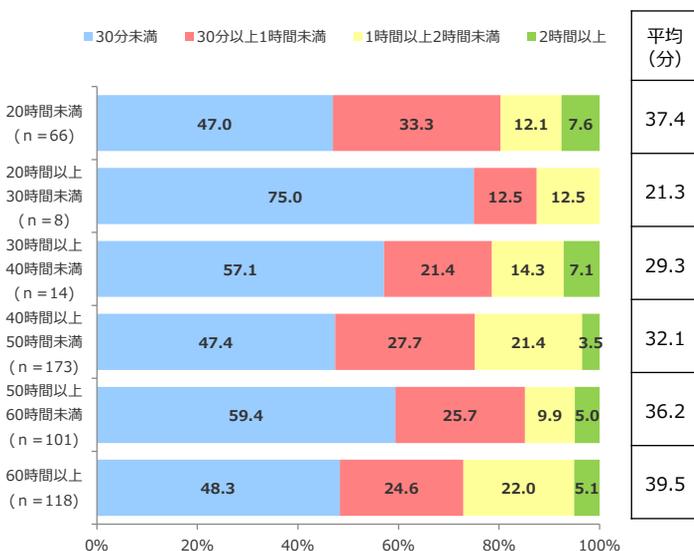
男性は、「20時間以上30時間未満」を除き、労働時間が長くなるほど、子供との会話時間が「30分未満」の割合が概ね低くなる傾向にある（図6.2）。

一方、女性は、労働時間が「60時間以上」の者では84.6%が子供との会話時間が1時間未満となっており、他の労働時間の者に比べて大幅に高くなっていた（図6.3）。

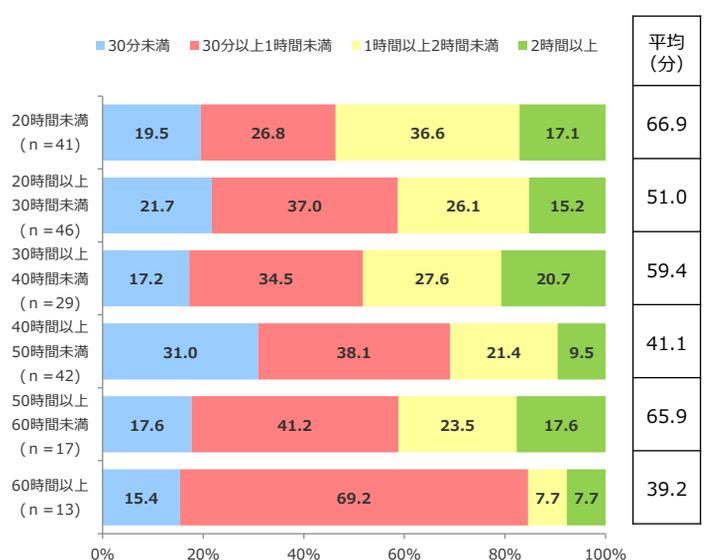
【図6.1】有職者／労働日の子供との会話時間：大人性別



【図6.2】男性有職者／労働日の子供との会話時間：1週間の労働時間別



【図6.3】女性有職者／労働日の子供との会話時間：1週間の労働時間別

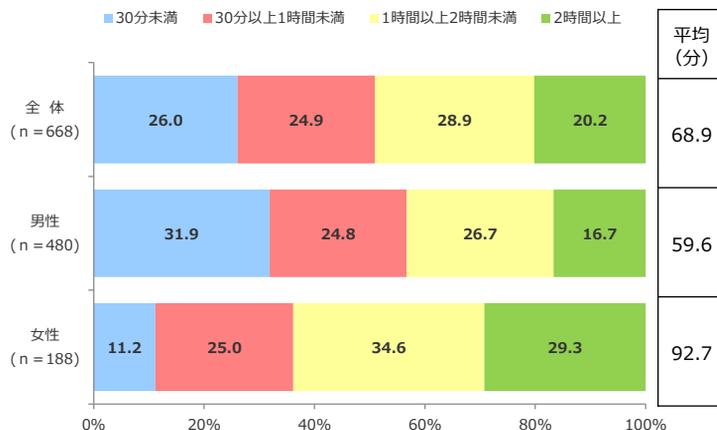


【有職者】 休日の子供との会話時間

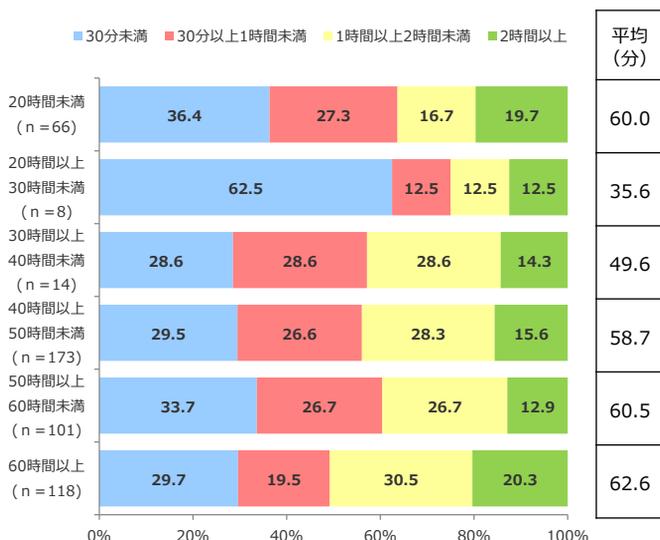
有職の男女の休日における子供との会話時間の平均を聞くと、全体では「1時間以上2時間未満」が28.9%、「2時間以上」が20.2%となっていた。平均は68.9分だった

男性は、1時間未満が56.7%だったが、女性では36.2%に留まっている。平均は、男性が59.6分なのに対し、女性は92.7分と約30分長く、子供との会話機会が圧倒的に多いことがうかがえる（図6.4）。

【図6.4】 有職者／休日の子供との会話時間：大人性別



【図6.5】 男性有職者／休日の子供との会話時間：1週間の労働時間別



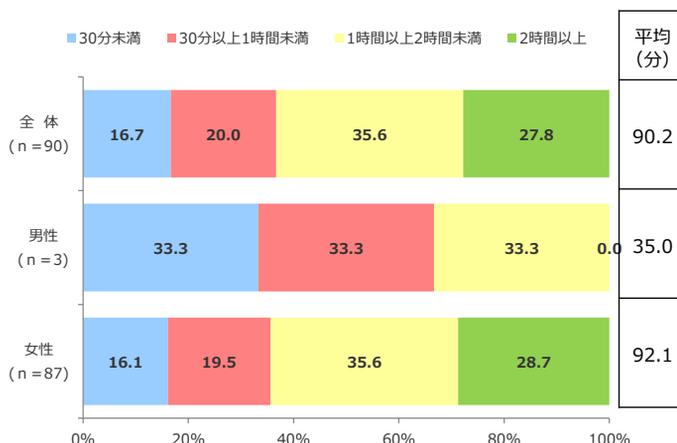
【図6.6】 女性有職者／休日の子供との会話時間：1週間の労働時間別



【無職者】の毎日の子供との会話時間

無職の者に子供との会話時間の毎日の平均を聞くと、全体では「1時間以上2時間未満」が35.6%で最も高くなっていた。平均は90.2分だった（図6.7）。

【図6.7】 無職者／毎日の子供との会話時間：大人性別



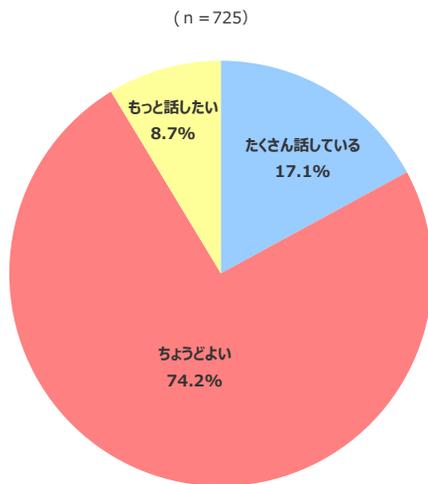
父親との会話量

高校1-3年生の子供に、父親との会話量について聞くと、74.2%が「ちょうどよい」と回答した（図7.1）。

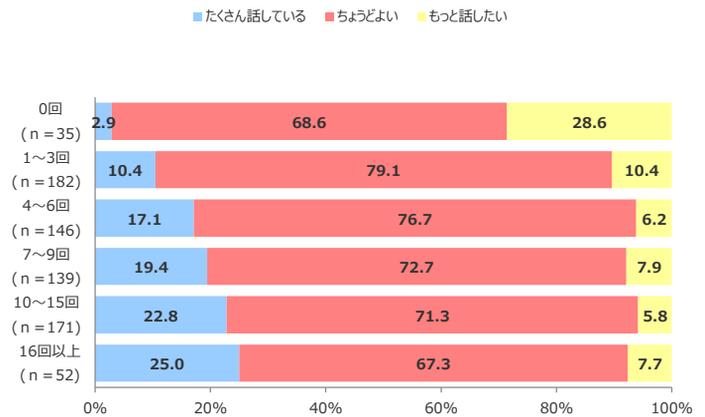
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、家族での食事回数が増えるほど、父親と「たくさん話している」と感じる子供が多くなる傾向がある（図7.2）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、労働日でも休日でも会話時間が長くなるほど、子供は「たくさん話している」と感じている（図7.3、図7.4）。

【図7.1】父親との会話量

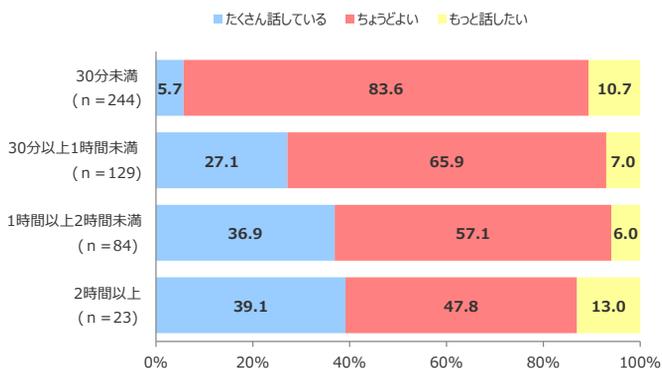


【図7.2】父親との会話量：家族揃っての食事回数別



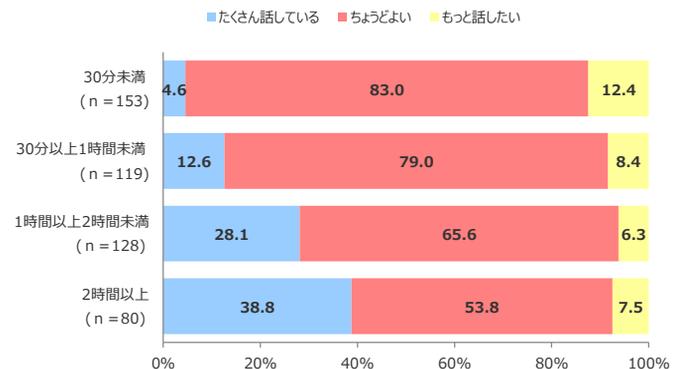
【図7.3】父親との会話量

：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図7.4】父親との会話量

：男性有職者の休日の子供との会話時間別



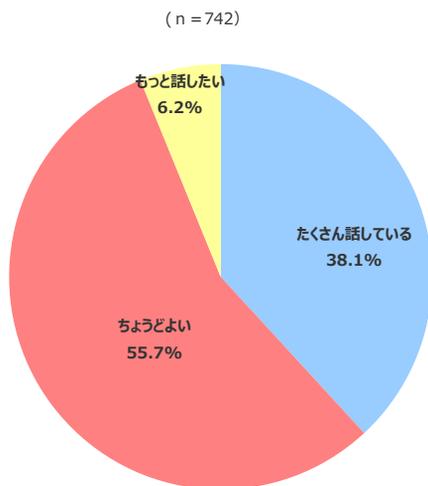
母親との会話量

高校1-3年生の子供に、母親との会話量について聞くと、「たくさん話している」が38.1%、「ちょうどよい」55.7%となった。父親に比べて、「たくさん話している」の回答割合は大幅に高く、その差は21ポイントに上る（図8.1）。

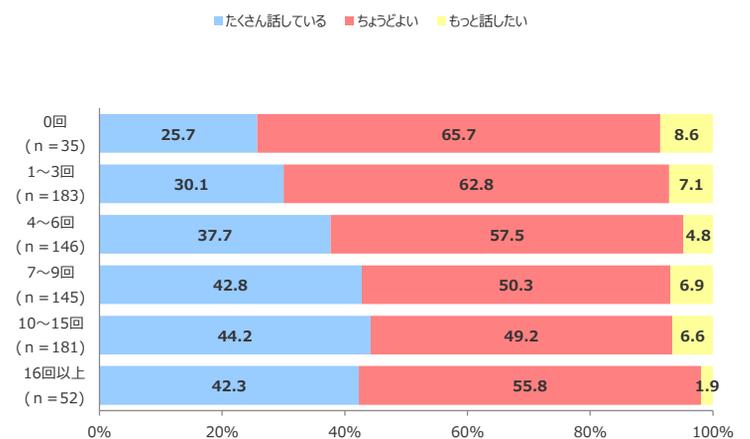
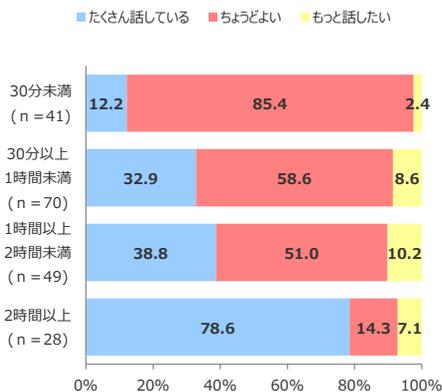
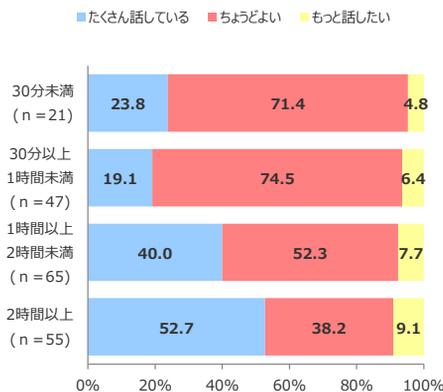
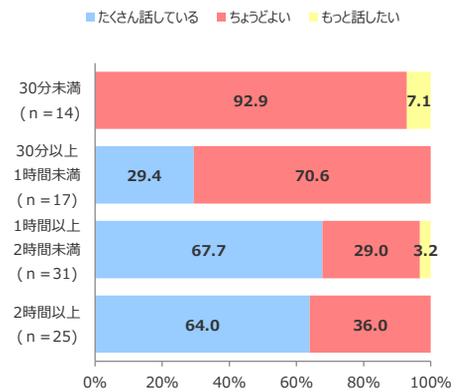
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、家族揃っての食事回数が多いほど、母親と「たくさん話している」と感じる子供の割合が概ね高くなっていった（図8.2）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職者も無職者も日々の会話時間が長くなるほど、子供は「たくさん話している」と感じている割合が高い傾向にあった（図8.3、図8.4、図8.5）。

【図8.1】 母親との会話量



【図8.2】 母親との会話量：家族揃っての食事回数別

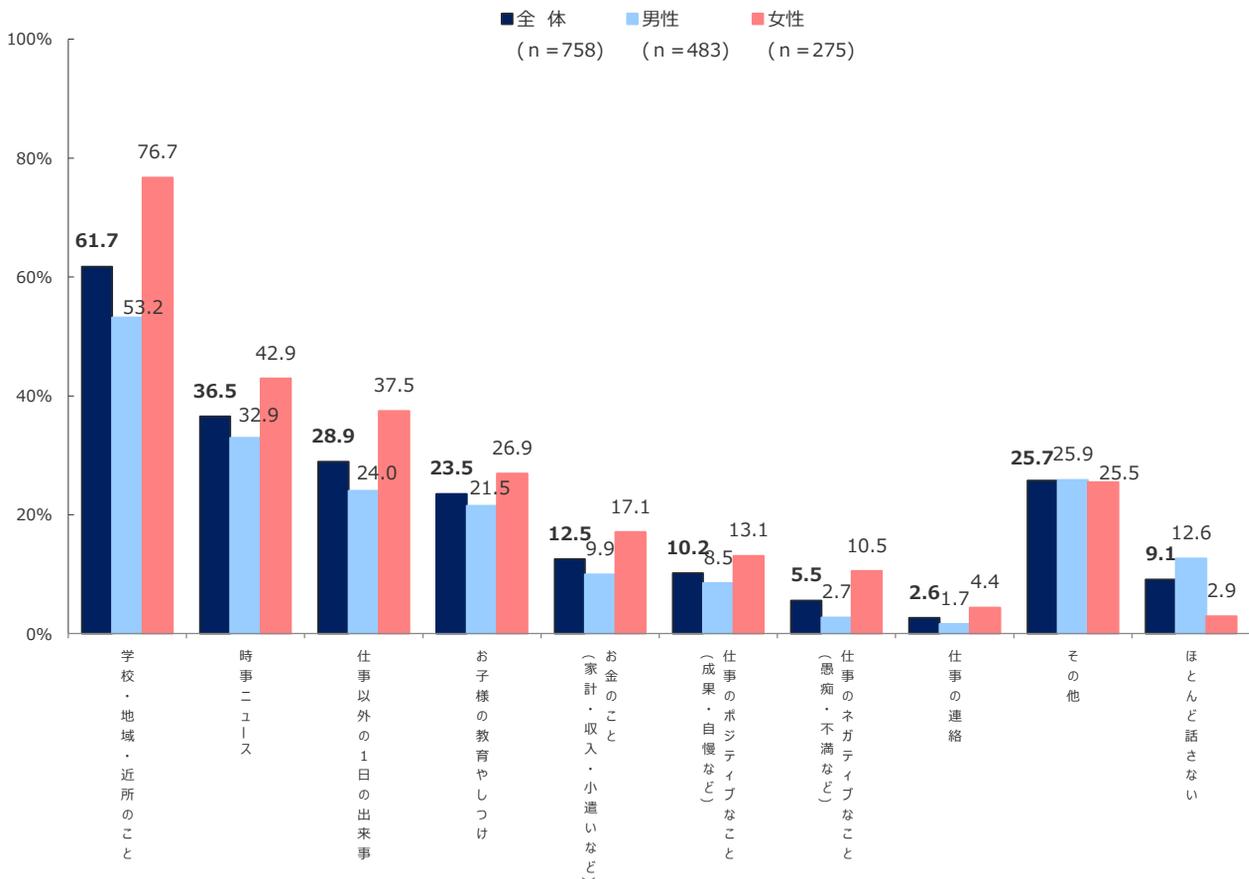
【図8.3】 母親との会話量
：女性有職者の労働日の
子供との会話時間別【図8.4】 母親との会話量
：女性有職者の休日の
子供との会話時間別【図8.5】 母親との会話量
：女性無職者の毎日の
子供との会話時間別

家族との会話の内容

高校1-3年生の子供がいる男女に、自身が家族と話す内容はどんなものが多いかを聞いた。最も多かったのは「学校・地域・近所のこと」で61.7%、次いで「時事ニュース」36.5%、「仕事以外の1日の出来事」28.9%、「お子様の教育やしつけ」23.5%となっている。

回答者の性別で見ると、女性回答者（母親）は、「その他」を除きすべての内容において男性回答者（父親）の回答割合を超えており、様々な話題を家族に話しているようだ（図9）。

【図9】 家族との会話の内容：大人性別

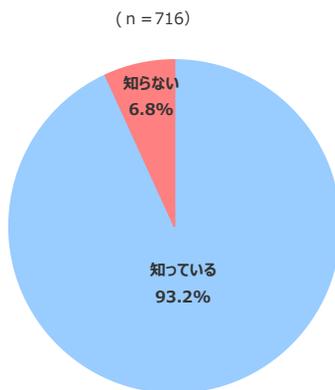


父親の仕事を知っているか[有職者]

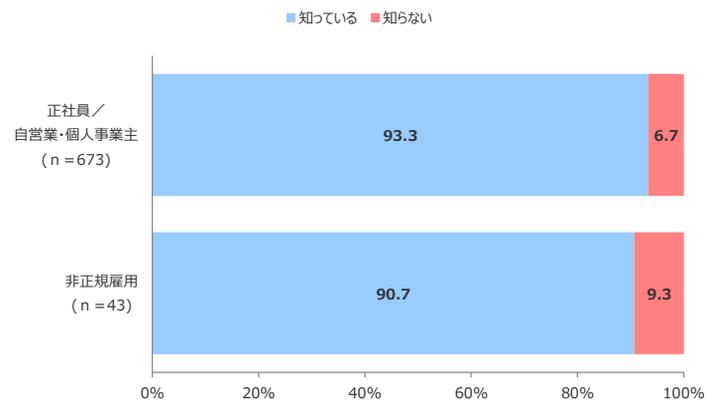
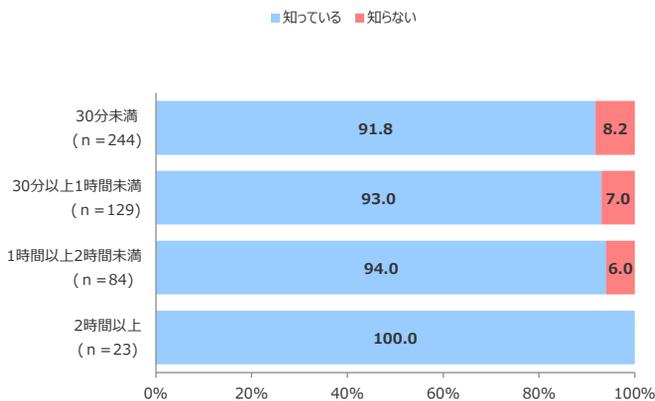
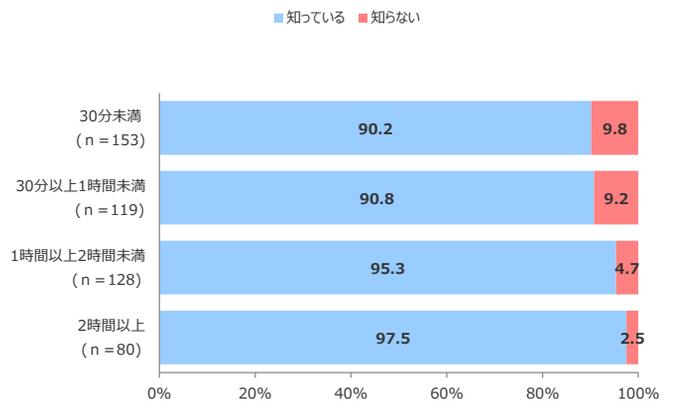
高校1-3年生の子供に、父親（有職者のみ）がどのような仕事をしているか知っているか聞いたところ、93.2%が「知っている」と回答した（図10.1）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、労働日および休日の会話時間が長い男性の子供ほど、父親の仕事を「知っている」割合が高くなっていく（図10.3、図10.4）。

【図10.1】父親の仕事を知っているか



【図10.2】父親の仕事を知っているか：父親の雇用形態別

【図10.3】父親の仕事を知っているか
：男性有職者の労働日の子供との会話時間別【図10.4】父親の仕事を知っているか
：男性有職者の休日の子供との会話時間別

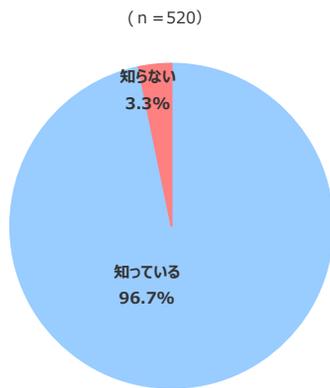
母親の仕事を知っているか[有職者]

高校1-3年生の子供に、母親（有職者のみ）がどのような仕事をしているか知っているか聞いたところ、96.7%が「知っている」と回答した（図11.1）。父親の仕事よりも母親の仕事の方が「知っている」と回答した子供の割合が高い。

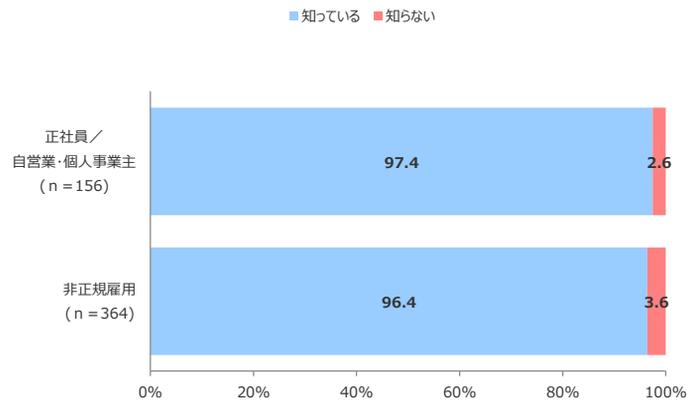
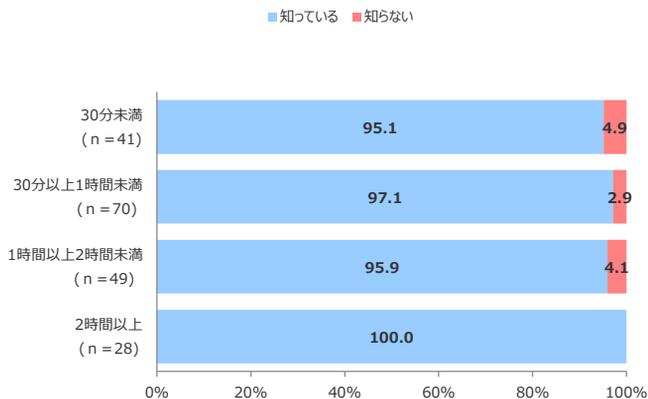
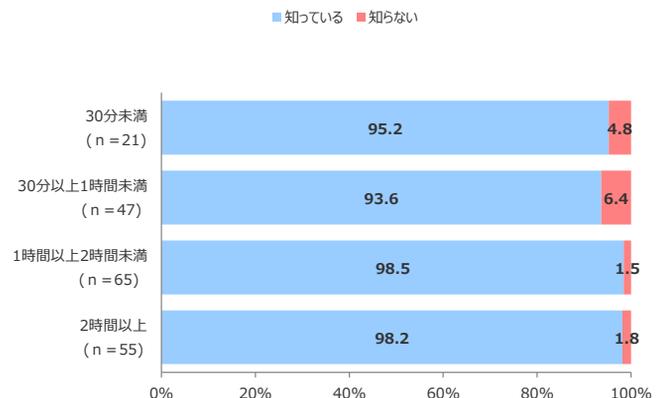
雇用形態別では、大きな差は見られなかった（図11.2）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、母親と会話時間が長い方が「知っている」割合も概ね高くなる傾向があるが、父親の場合ほど大きな差はなかった（図11.3、図11.4）。

【図11.1】母親の仕事を知っているか



【図11.2】母親の仕事を知っているか：母親の雇用形態別

【図11.3】母親の仕事を知っているか
：女性有職者の労働日の子供との会話時間別【図11.4】母親の仕事を知っているか
：女性有職者の休日の子供との会話時間別

配偶者の仕事を知っているか

高校1-3年生の子供がいる男女で既婚の者に、「配偶者」の仕事を知っているか聞いた（※1）。「よく知っている」43.8%、「大体は知っている」37.9%となり、8割の回答者が配偶者の仕事のある程度把握していた（図12.1）。

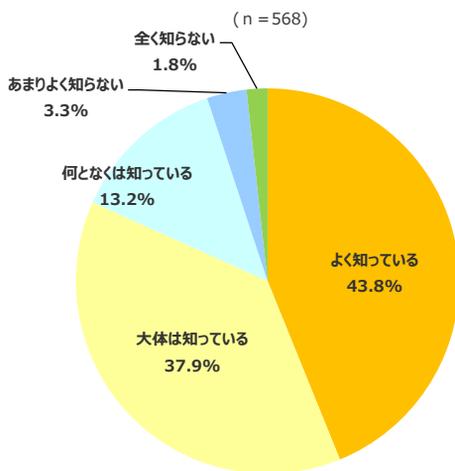
男女別に見ると、女性に比べ、男性の方が配偶者の仕事を「よく知っている」と回答した割合が高い（図12.2）。

家庭状況別に見ると、「共働き家庭A」では配偶者の仕事を「よく知っている」者が52.4%と半数に上る一方、「専業主婦/夫 家庭」では33.3%と低くなっている（図12.3）。

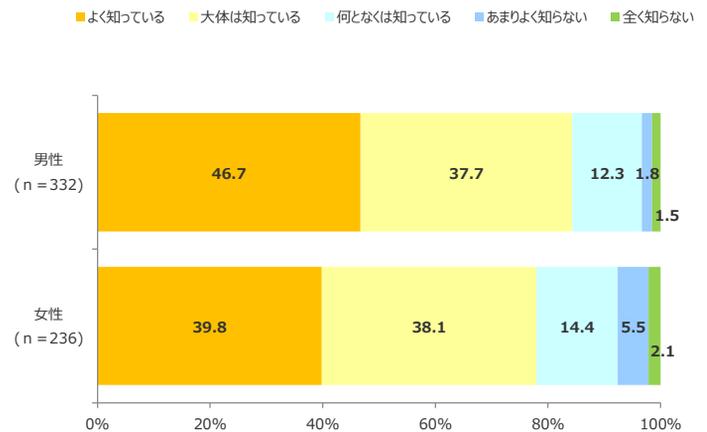
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、食事回数が多くなるほど「よく知っている」「大体は知っている」の合計値も高くなる傾向があり、夫婦間のコミュニケーションが進んでいることがうかがえる（図12.4）。

※1 配偶者が有職者の場合のみ集計

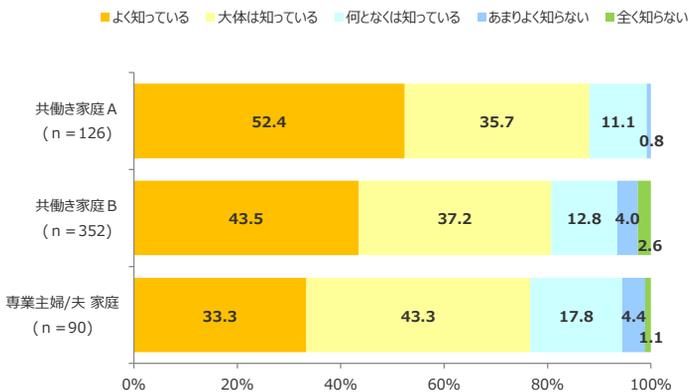
【図12.1】配偶者の仕事を知っているか



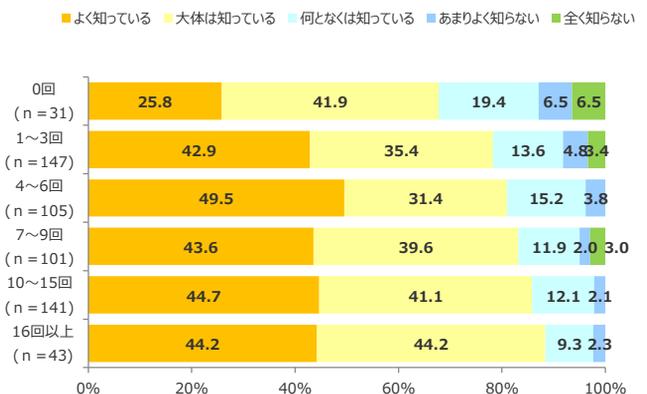
【図12.2】配偶者の仕事を知っているか：大人性別



【図12.3】配偶者の仕事を知っているか：家庭状況別



【図12.4】配偶者の仕事を知っているか：家族揃っての食事回数別



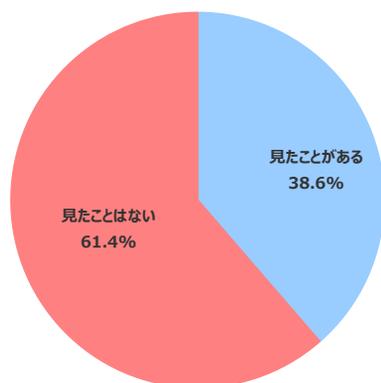
父親の働く姿を見たことがあるか

高校1-3年生の子供に、父親が働く姿（※1）を見たことがあるかを聞くと、「見たことがある」子供は38.6%だった。有職の父親の場合も38.5%だった。父親の仕事を知っている子供は93.2%に上ったが、その働く姿を実際に「見たことがある」子供は多くはないようだ（図13.1、図13.2）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

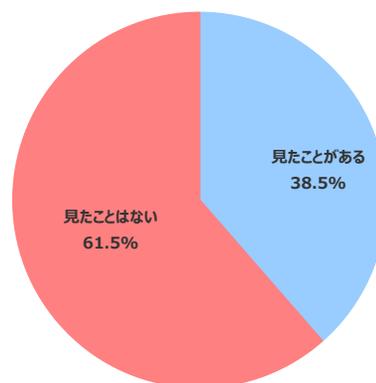
【図13.1】父親の働く姿を見たことがあるか

(n = 725)



【図13.2】父親の働く姿を見たことがあるか（有職者のみ）

(n = 716)



母親の働く姿を見たことがあるか

高校1-3年生の子供に、母親が働く姿（※1）を見たことがあるかを聞いた。母親の働く姿を「見たことがある」子供は48.0%となり、父親の働く姿を見たことがある子供よりも割合が高くなっていた（図14.1）。有職の母親に限ると、「見たことがある」子供は42.7%で、全体よりもやや減少した（図14.2）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

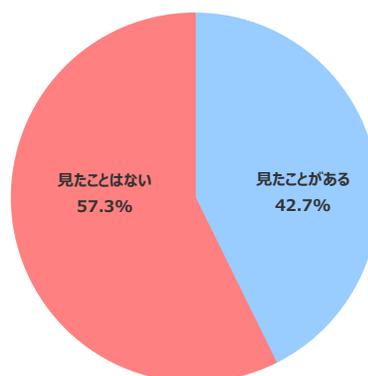
【図14.1】母親の働く姿を見たことがあるか

(n = 742)



【図14.2】母親の働く姿を見たことがあるか（有職者のみ）

(n = 520)



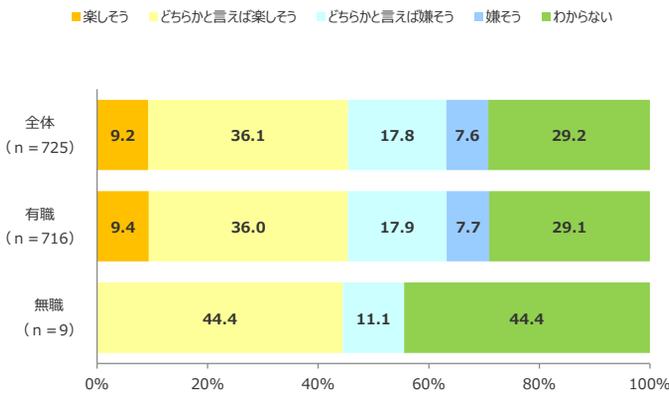
働く父親は楽しそうか

高校1-3年生の子供に、働いている(※1)父親を見て楽しそうに見えるかを聞いた。

全体では、「楽しそう」9.2%、「どちらかと言えば楽しそう」36.1%となり、合わせて45.3%の子供が、働いている父親は楽しそうに見える」と回答している。一方、「わからない」と回答した子供も多く、29.2%に上る(図15.1)。

「大人調査：父親の仕事の充実度」との関係を見ると、父親の仕事が「充実している(どちらかと言えばも含む/以下同)」家庭の子供は、「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」が計57.8%に上り、「充実していない(どちらかと言えばも含む/以下同)」家庭の約3倍高くなっていた。また、「わからない」も、「充実している」家庭の子供は25.4%だったが、「充実していない」家庭の子供では38.8%と差が生じている(図15.2)。

【図15.1】働く父親は楽しそうか：父親の就労状況別

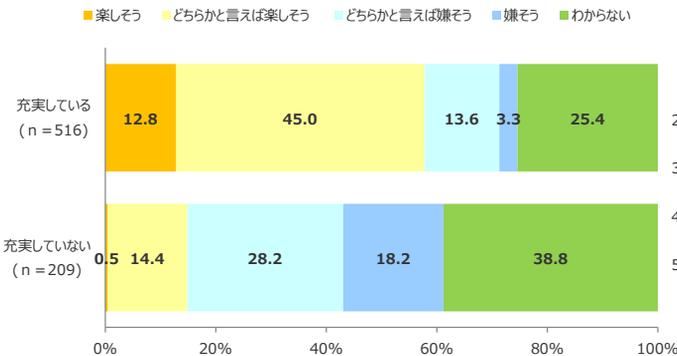


「家族揃っての食事回数別」との関係を見ると、食事回数が多くなるに連れて「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値も高くなっていく傾向が見えた(図15.4)。

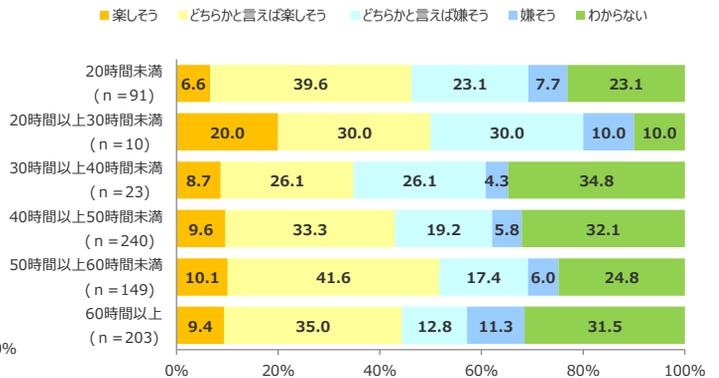
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職者では会話時間が長い男性の子供ほど「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値も概ね高くなる(図15.5)。子供たちは、食事や会話など日頃のコミュニケーションを通じて、父親の仕事の様子を感じ取っているようだ。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

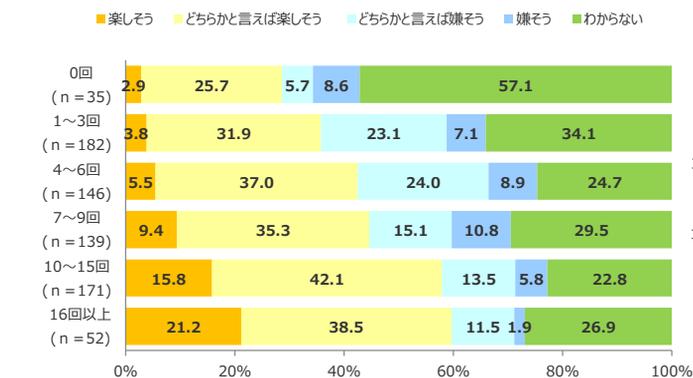
【図15.2】働く父親は楽しそうか：父親の仕事の充実度別



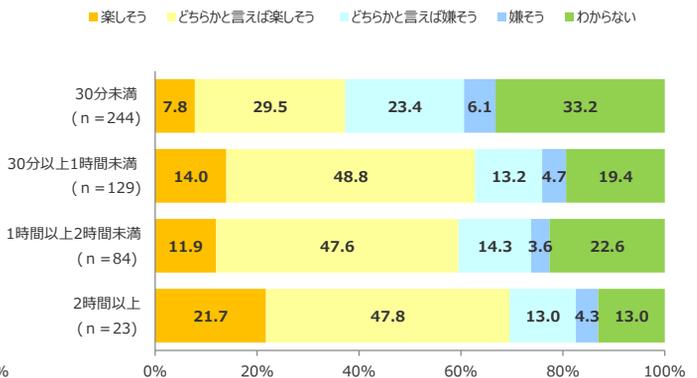
【図15.3】働く父親は楽しそうか：有職の父親の1週間の労働時間別



【図15.4】働く父親は楽しそうか：家族揃っての食事回数別



【図15.5】働く父親は楽しそうか：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



働く母親は楽しそうか

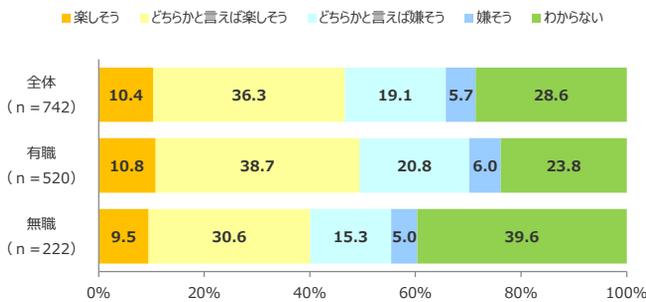
高校1-3年生の子供に、働いている(※1)母親を見て楽しそうに見えるかを聞いた。「楽しそう」10.4%、「どちらかと言えば楽しそう」36.3%となり、合わせて46.7%の子供が働く母親が楽しそうに見えると回答した。一方、「わからない」と回答した子供も28.6%いた。無職の母親よりも有職の母親の方が、「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値は高く、差は9.4ポイントに上っていた(図16.1)。

「大人調査：母親の仕事の充実度」との関係を見ると、母親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」が計58.6%に上り、「充実していない」家庭の3倍以上高い(図16.2)。

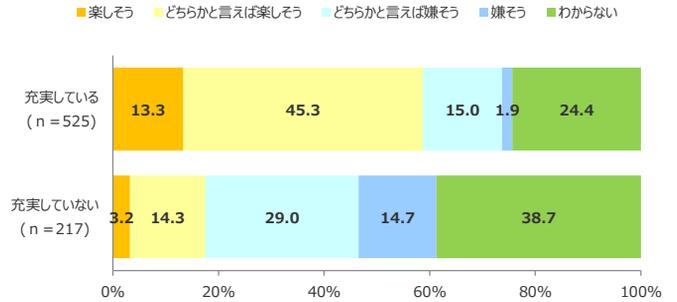
「家族揃っての食事回数別」との関係を見ると、食事回数が多くなるに連れて「楽しそう」「どちらかと言えば楽しそう」の合計値も概ね高くなっていった(図16.4)。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

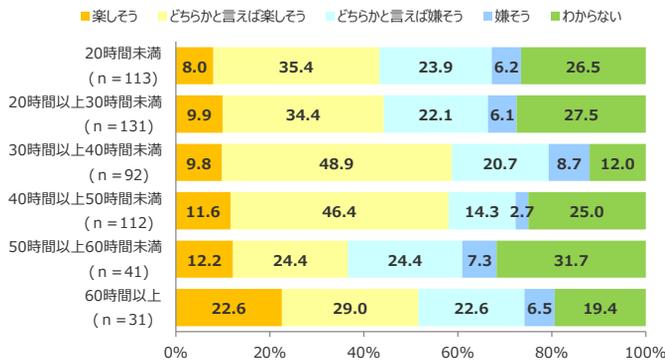
【図16.1】働く母親は楽しそうか：母親の就労状況別



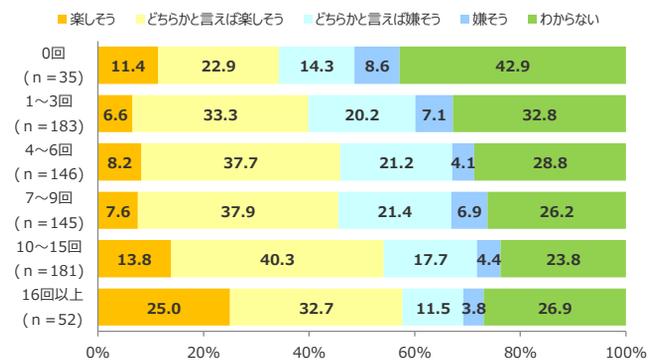
【図16.2】働く母親は楽しそうか：母親の仕事の充実度別



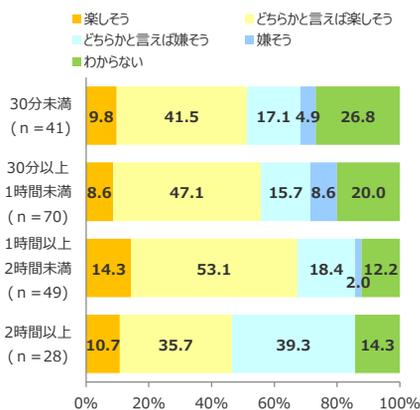
【図16.3】働く母親は楽しそうか：有職の母親の1週間の労働時間別



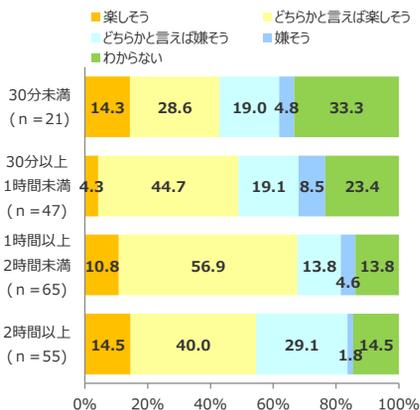
【図16.4】働く母親は楽しそうか：家族揃っての食事回数別



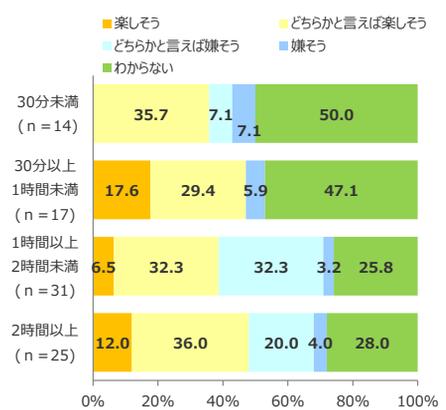
【図16.5】働く母親は楽しそうか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図16.6】働く母親は楽しそうか：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図16.7】働く母親は楽しそうか：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



働く父親を「すごい」と思うか

高校1-3年生の子供に、働いている（※1）父親を見てすごいと思うかを聞いた。「すごい」21.0%、「どちらかと言えばすごい」44.1%となり、65.1%の子供が働く父親をすごいと感じている。一方、「わからない」と回答した子供も19.7%いた（図17.1）。

「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、父親の仕事を「見たことがある」家庭の子供は、「すごい」が28.2%と、「見たことはない」家庭よりも約1.7倍高く、そのすごさを実感しているようだ（図17.2）。

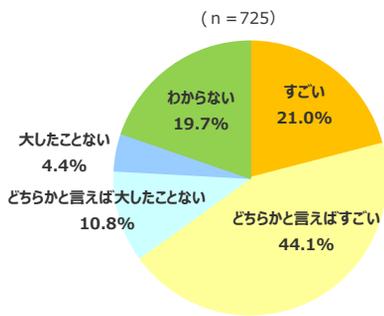
「大人調査：父親の仕事の充実度」との関係を見ると、父親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「すごい」が26.4%と、「充実していない」家庭の3倍以上高くなっていた（図17.3）。

「大人調査：家族揃っての食事回数」との差を見ると、食事回数が多くなるほど「すごい」と感じている子供の割合も概ね高くなっていく傾向があった（図17.4）。

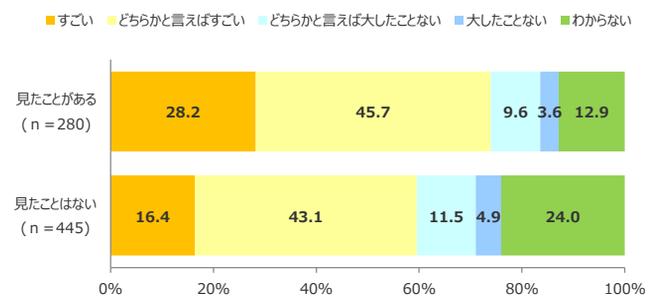
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職の男性の場合、子供との会話時間が長くなるほど、子供が父親のことを「すごい」と感じる割合が高くなる傾向があり、会話を通して働く父親のすごさを知っているようだ（図17.5）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

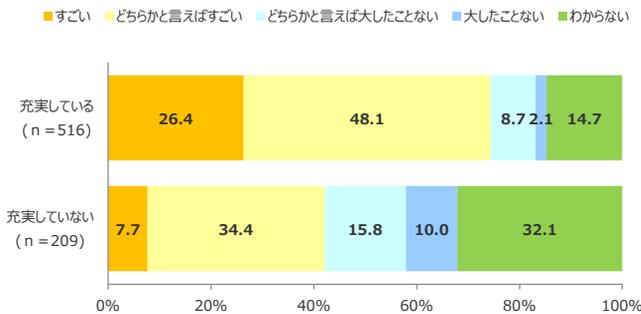
【図17.1】働いている父親を「すごい」と思うか



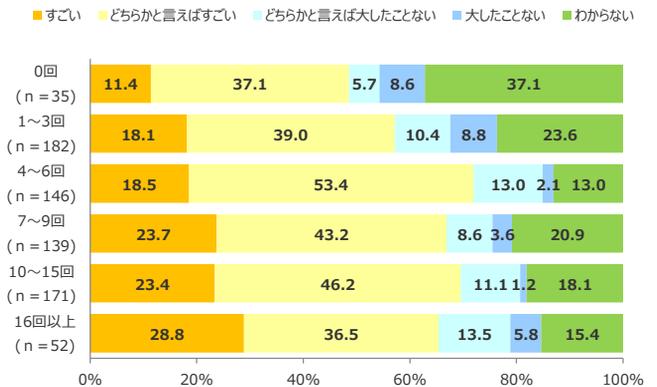
【図17.2】働いている父親を「すごい」と思うか：父親の働く姿を見たことがあるか別



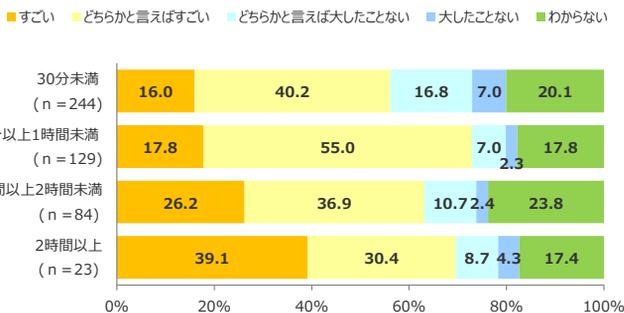
【図17.3】働いている父親を「すごい」と思うか：父親の仕事の充実度別



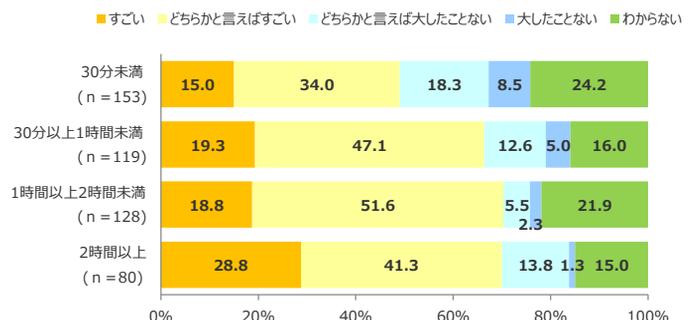
【図17.4】働いている父親を「すごい」と思うか：家族揃っての食事回数別



【図17.5】働いている父親を「すごい」と思うか：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図17.6】働いている父親を「すごい」と思うか：男性有職者の休日の子供との会話時間別

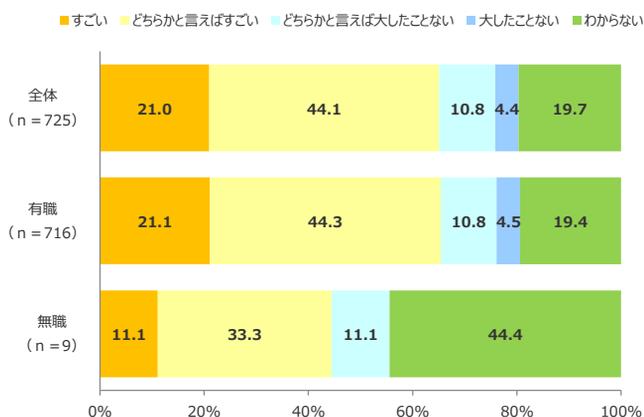


父親の就労状況別に見ると、「無職」の場合は、「有職」の場合に比べて「すごい」「どちらかと言えばすごい」の回答割合は低く、「わからない」が44.4%に達していた（図17.8）。

「大人調査：1週間の労働時間」との関係を見ると、「すごい」の割合は、労働時間が長くなるほど概ね高くなっていく傾向があった（図17.9）。

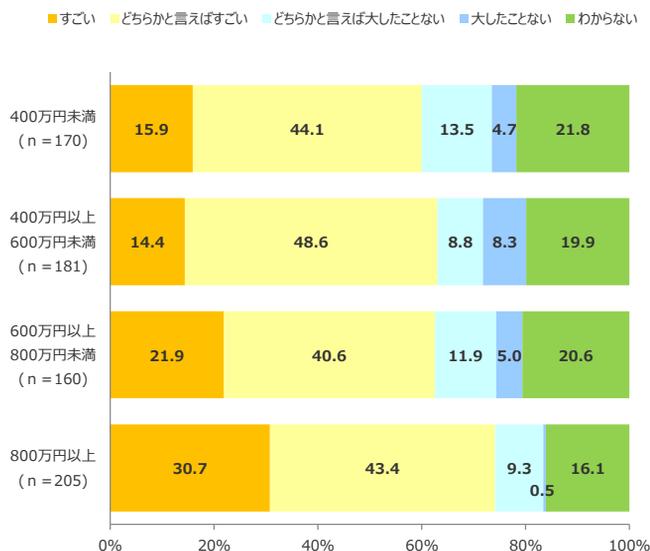
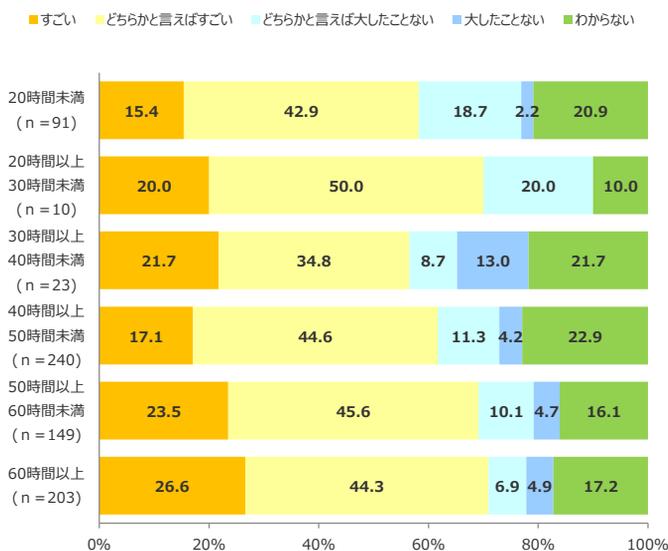
「大人調査：親の年収」との関係を見ると、父親の年収が高い家庭の子供ほど、「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計値も高くなっていく傾向があった（図17.10）。

【図17.7】働いている父親を「すごい」と思うか：父親の就労状況別



【図17.8】働いている父親を「すごい」と思うか：有職の父親の1週間の労働時間別

【図17.9】働いている父親を「すごい」と思うか：父親の年収別



働く母親を「すごい」と思うか

高校1-3年生の子供に、働いている（※1）母親を見てすごいと思うかを聞いた。「すごい」16.6%、「どちらかと言えばすごい」43.9%となり、合わせて60.5%の子供が母親をすごいと感じている。父親と比べるとやや低い（図18.1）。

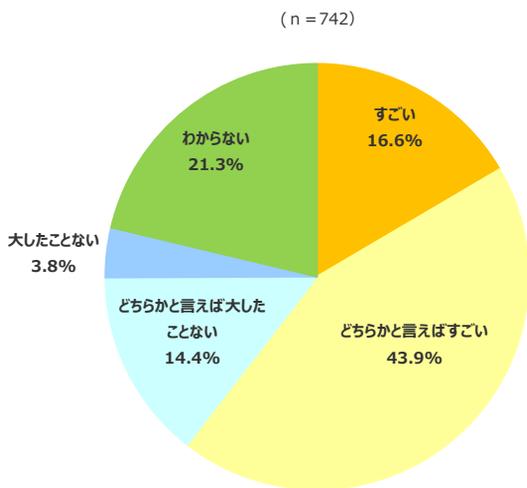
「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、母親の仕事を「見たことがある」子供は、「すごい」が22.5%となり、「見たことはない」家庭に比べて約2倍高くなっていた（図18.2）。

「大人調査：母親の仕事の充実度」との関係を見ると、「充実している」家庭の子供は、「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計が71.1%となり、「充実していない」家庭よりも36.1ポイントと大幅に高くなっていた（図18.3）。

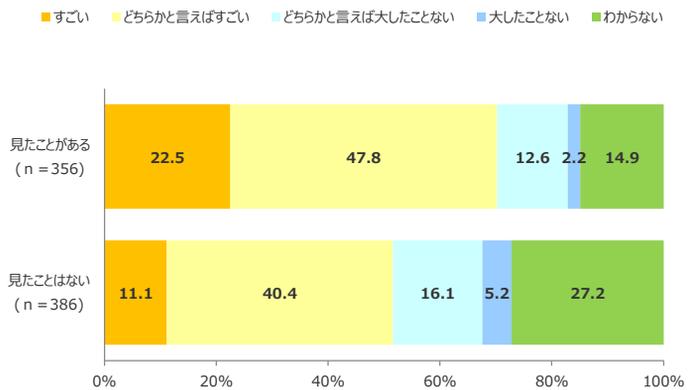
「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、食事回数が増えるほど母親を「すごい」と感じる子供の割合も概ね高くなっていく傾向がある。「16回以上」の家庭の子供では30.8%と最も高くなっていた（図18.4）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを 「働く」または「仕事」としている

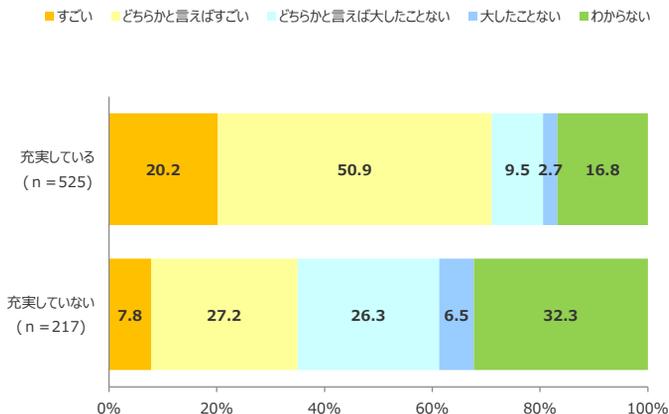
【図18.1】働いている母親を「すごい」と思うか



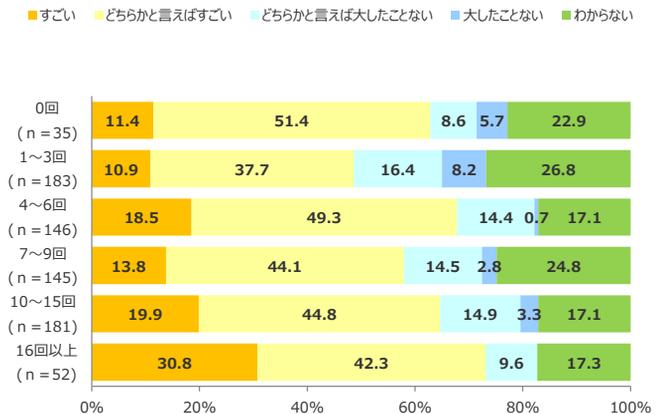
【図18.2】働いている母親を「すごい」と思うか：母親の働く姿を見たことがあるか別



【図18.3】働いている母親を「すごい」と思うか：母親の仕事の充実度別



【図18.4】働いている母親を「すごい」と思うか：家族揃っての食事回数別



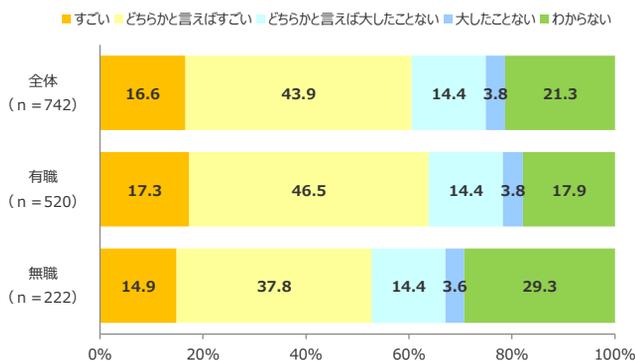
母親の就労状況別に見ると、「有職」の方が「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計値は高い。とは言え、「無職」でも5割程度ある。父親が「無職」の場合では「わからない」が半数近く、家事などの無償労働が評価されづらかったが、母親の場合はそうではないようだ（図18.5）。

「大人調査：親の労働時間」との関係を見ると、労働時間が長くなるにつれ、「すごい」の回答割合も高くなっていく傾向がある。特に、「60時間以上」働く母親は「すごい」が32.3%と他よりも高い。父親の場合よりも労働時間での変化が大きく、母親の場合は評価につながっているようだ（図18.6）。

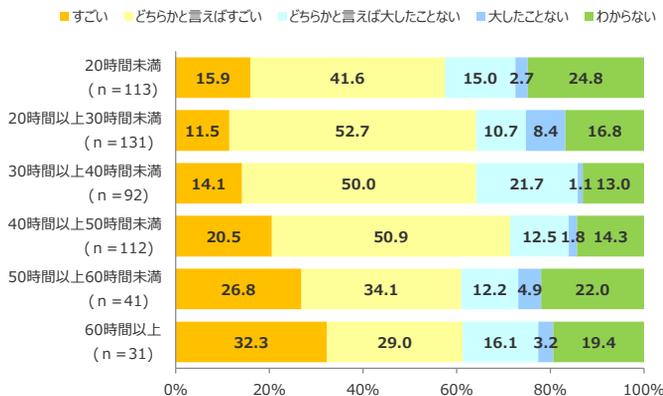
「大人調査：親の収入」との関係を見ると、「400万円以上」の場合は、「すごい」という評価が27.3%で最も高くなる（図18.7）。

「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、母親との会話時間が長い子供では「すごい」「どちらかと言えばすごい」の合計値が概ね高くなる傾向だった（図18.8、図18.9、図18.10）。

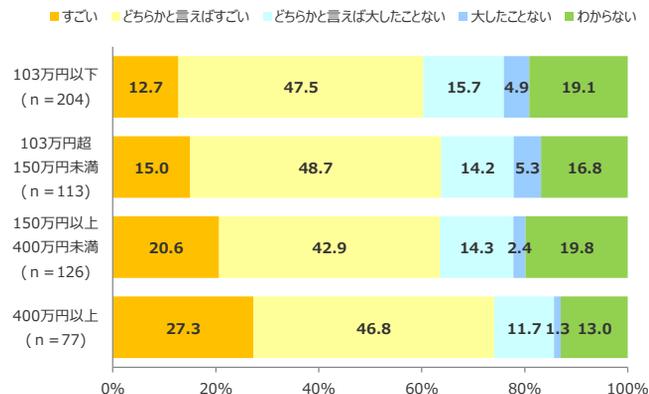
【図18.5】働いている母親を「すごい」と思うか：母親の就労状況別



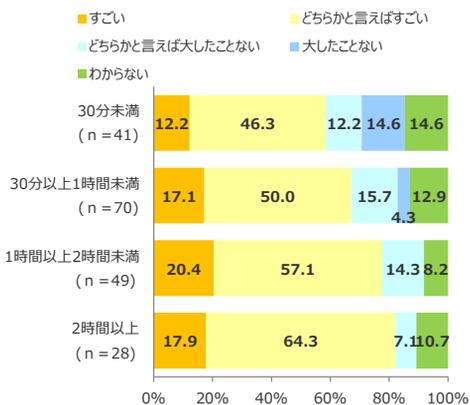
【図18.6】働いている母親を「すごい」と思うか：女性有職者/1週間の労働時間別



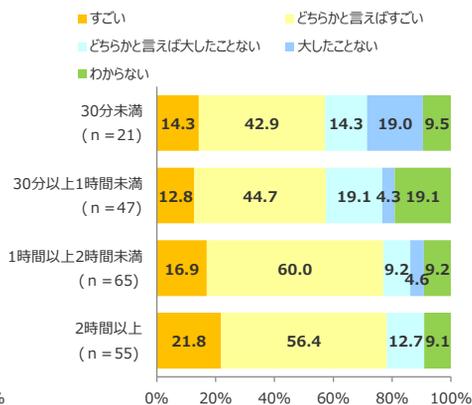
【図18.7】働いている母親を「すごい」と思うか：母親の年収別



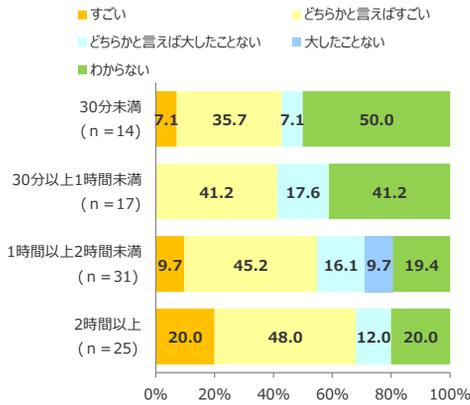
【図18.8】働いている母親を「すごい」と思うか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図18.9】働いている母親を「すごい」と思うか：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図18.10】働いている母親を「すごい」と思うか：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



働く父親への憧れ

高校1-3年生の子供に、働いている（※1）父親を見てどのように感じているかを聞いた。父親に対して、「あんな大人になりたい・計（「どちらかと言えばなりたい」も含む/以下同）」と憧れを持っている割合は、42.2%に上った（図19.1）。

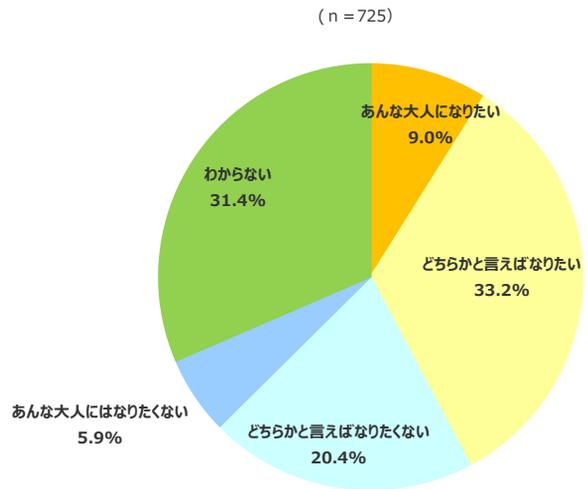
子供の性別で見ると、女子よりも男子の方が「あんな大人になりたい」の割合が高く、同性ゆえかその憧れも強いようだ（図19.2）。

「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、父親の働く姿を「見たことがある」子供は、「あんな大人になりたい・計」が51.8%となり、「見たことがない」子供よりも15.7ポイント高くなっていた。さらに、「わからない」という曖昧な回答者の割合も低い（図19.3）。

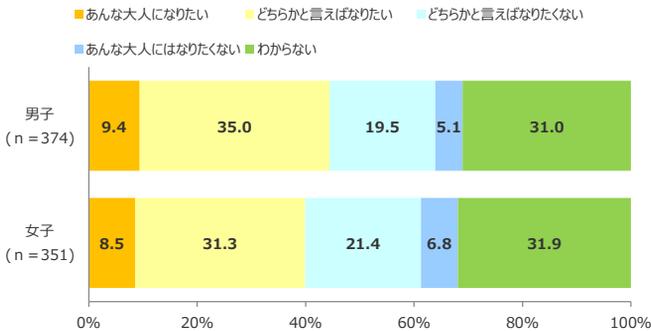
「大人調査：父親の仕事の充実度」との関係を見ると、父親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「あんな大人になりたい・計」が52.3%と、「充実していない」家庭よりも35ポイントも高くなっていた（図19.4）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

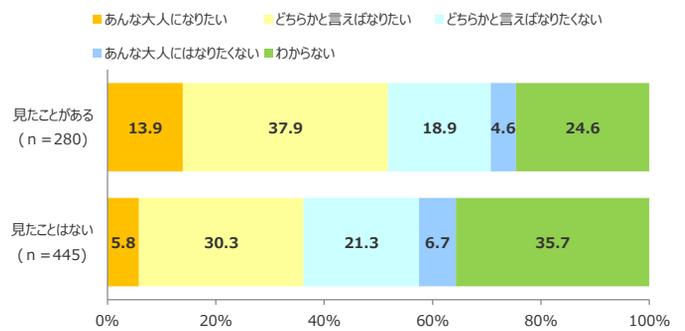
【図19.1】働いている父親を見てどのように感じているか



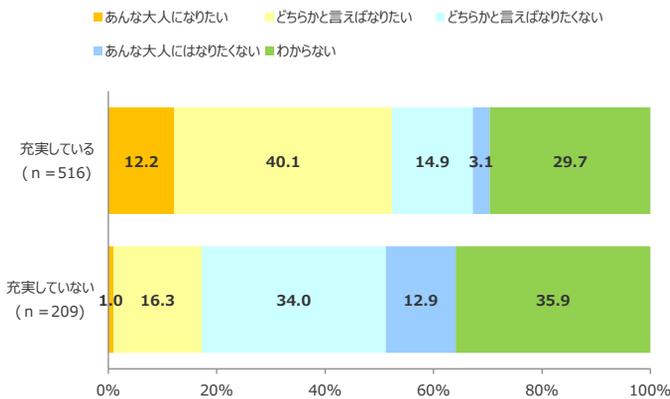
【図19.2】働いている父親を見てどのように感じているか
：子供性別



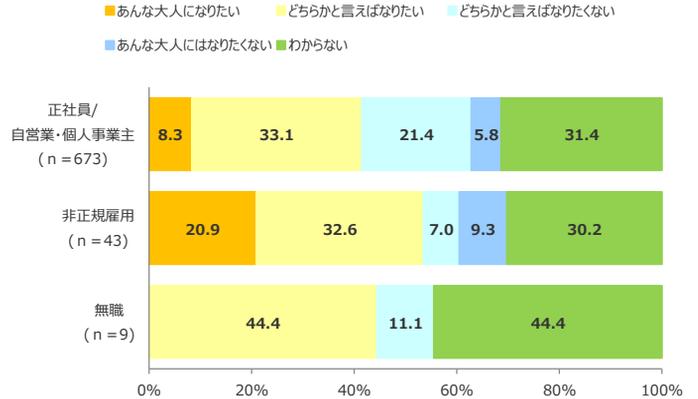
【図19.3】働いている父親を見てどのように感じているか
：父親の働く姿を見たことがあるか別



【図19.4】働いている父親を見てどのように感じているか
：父親の仕事の充実度別



【図19.5】働いている父親を見てどのように感じているか
：父親の就労状況別



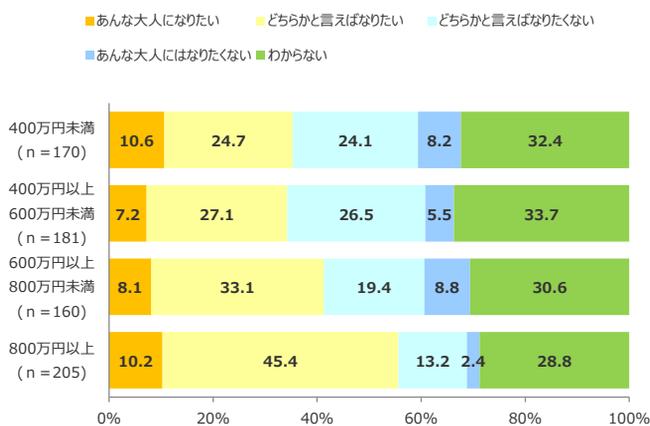
「大人調査：親の年収別」との関係を見ると、父親の年収が高くなるにつれて、「あんな大人になりたい・計」が高くなり、父親に憧れを持つ割合が高くなっている（図19.6）。

「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、食事回数が多くなるほど、「あんな大人になりたい・計」も概ね高くなる傾向が見られる。「わからない」の回答割合も、食事回数が多くなるほど低くなる（図19.7）。

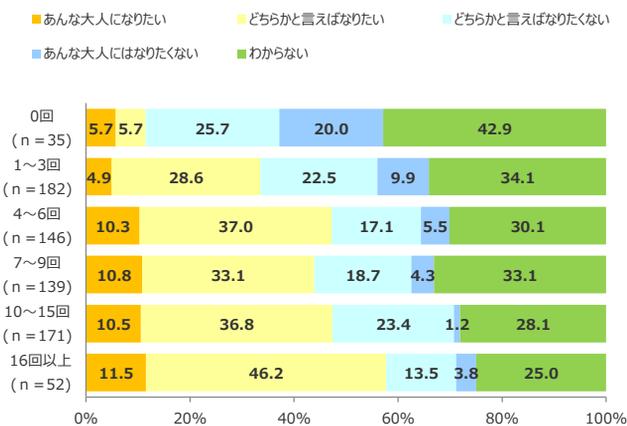
「大人調査：子供との会話時間」との関係を見ると、有職の男性では子供との会話時間が長くなるほど、子供は「あんな大人になりたい・計」が高くなる傾向がある（図19.8、図19.9）。

食事や会話など父親と過ごす時間が多いことで、父親の仕事や考えに触れる機会が増え、憧れにつながっているように思われる。

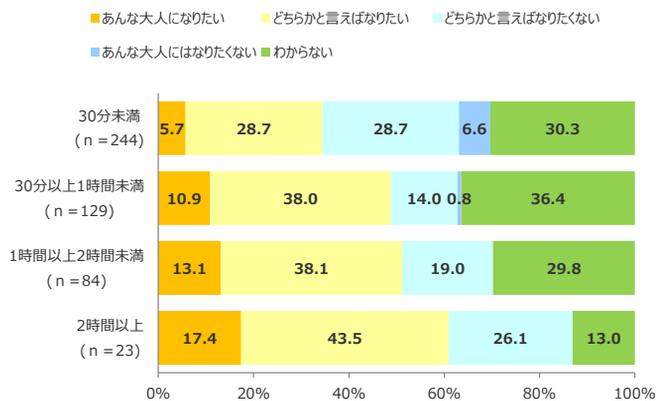
【図19.6】働いている父親を見てどのように感じているか
：父親の年収別



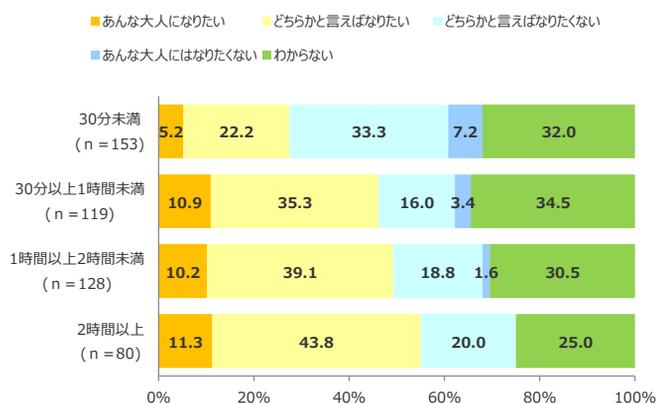
【図19.7】働いている父親を見てどのように感じているか
：家族揃っての食事回数別



【図19.8】働いている父親を見てどのように感じているか
：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図19.9】働いている父親を見てどのように感じているか
：男性有職者の休日の子供との会話時間別



働く母親への憧れ

高校1-3年生の子供に、働いている（※1）母親を見てどのように感じているかを聞いた。

母親に対して、「あんな大人になりたい・計」と憧れを持っている割合は、41.1%に上った（図20.1）。

子供の性別で見ると、男子よりも女子の方が「あんな大人になりたい」と感じている割合が高い（図20.2）。

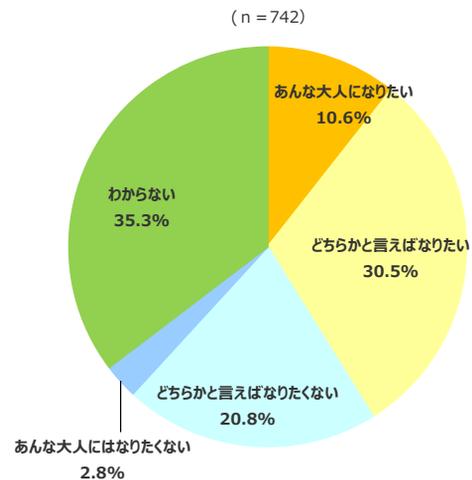
「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、母親の働く姿を「見たことがある」子供は、「あんな大人になりたい・計」が50.8%となり、「見たことがない」子供よりも18.7ポイント高くなっていた。父親に対する結果と同様に、「わからない」の回答割合も低くなっていた（図20.3）。

「大人調査：母親の仕事の充実度」との関係を見ると、母親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「あんな大人になりたい・計」が50.5%と、「充実していない」家庭の2.7倍以上高くなっていた（図20.4）。

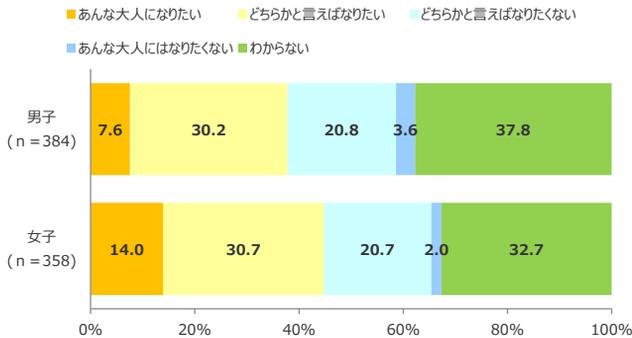
母親の就労状況別に見ると、「あんな大人になりたい・計」は、「正社員／自営業・個人事業主」では52.6%、「非正規雇用」では37.6%、「無職」では38.8%となっている（図20.5）。

※1 就労状況が「無職」の場合は、家事・育児など「生活の中で担当しているもの」を行っていることを「働く」または「仕事」としている

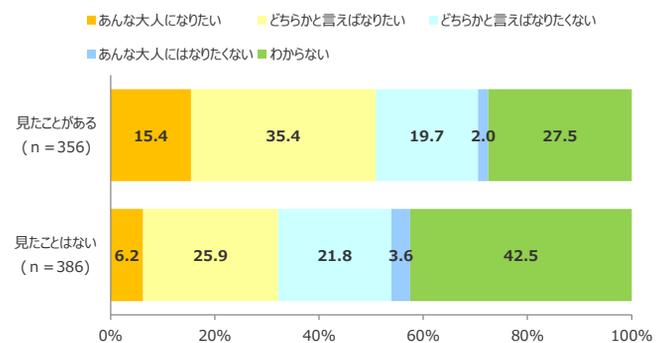
【図20.1】働いている母親を見てどのように感じているか



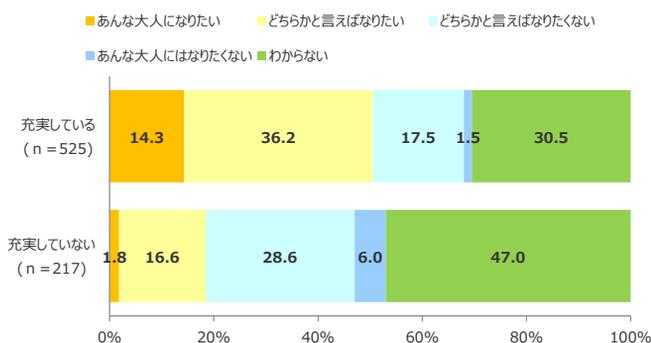
【図20.2】働いている母親を見てどのように感じているか：子供性別



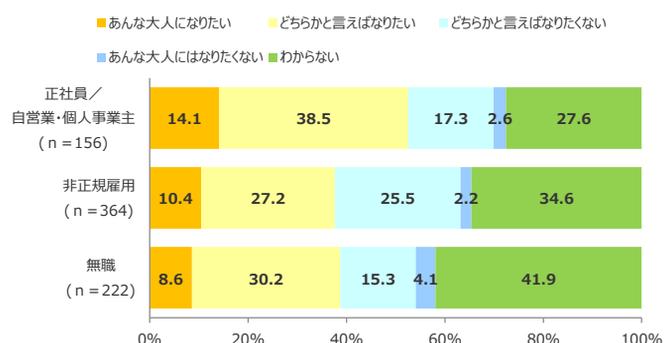
【図20.3】働いている母親を見てどのように感じているか：母親の働く姿を見たことがあるか別



【図20.4】働いている母親を見てどのように感じているか：母親の仕事の充実度別



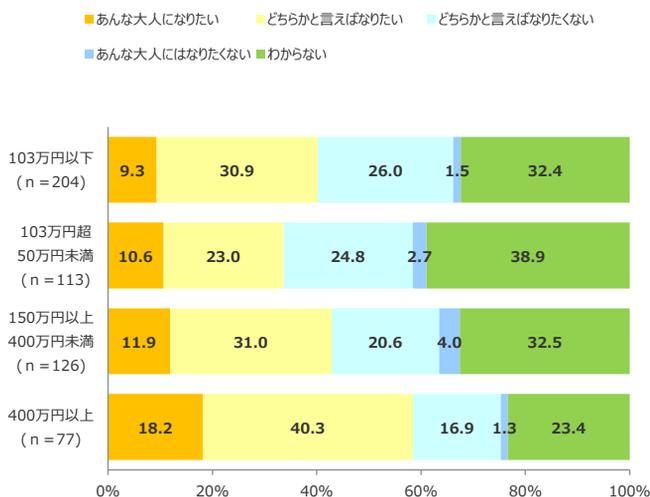
【図20.5】働いている母親を見てどのように感じているか：母親の就労状況別



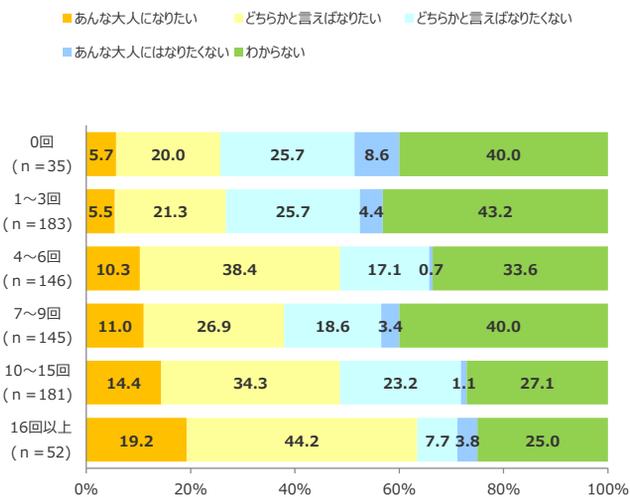
「大人調査：親の年収別」との関係を見ると、母親の年収が「400万円以上」の場合、「あんな大人になりたい・計」が最も高くなっている（図20.6）。

「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、父親と同様に 食事回数が増えるほど、「あんな大人になりたい・計」は概ね高くなっていく傾向にあった（図20.7）。

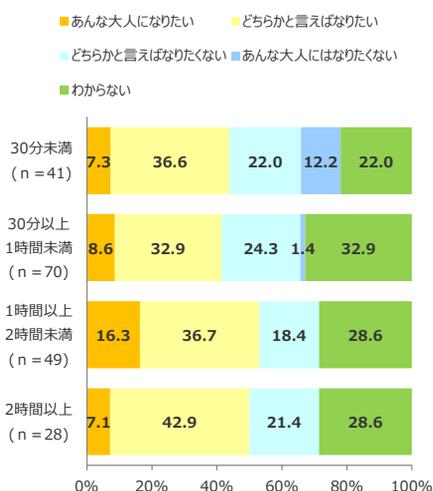
【図20.6】働いている母親を見てどのように感じているか：母親の年収別



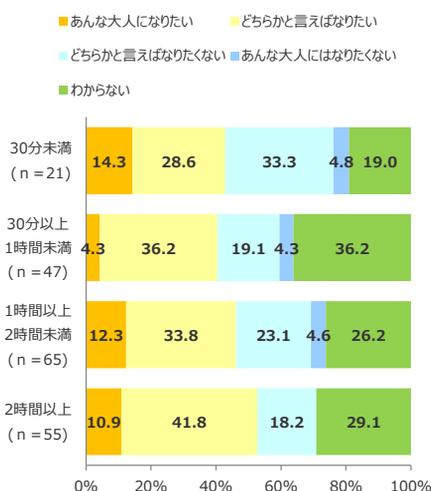
【図20.7】働いている母親を見てどのように感じているか：家族揃っての食事回数別



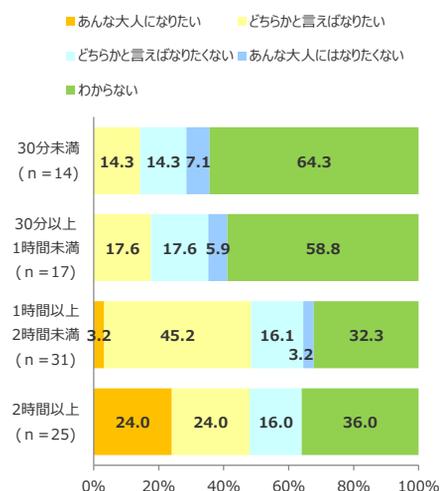
【図20.8】働いている母親を見てどのように感じているか：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図20.9】働いている母親を見てどのように感じているか：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図20.10】働いている母親を見てどのように感じているか：女性無職者の毎日の子供との会話時間別



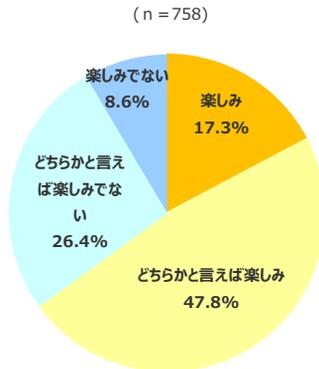
将来働くことは楽しみか

高校1-3年生の子供に、将来働くことを楽しみに感じているかを聞いた。結果は、「楽しみ・計（「どちらかと言えば楽しみ」も含む/以下同）」が、65.1%に上った（図21.1）。

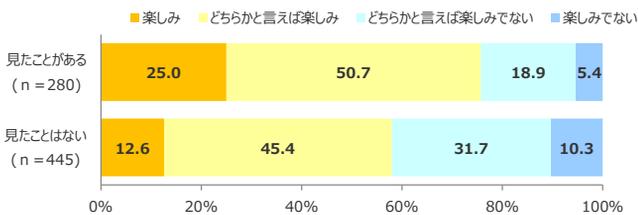
「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見た。父親の働く姿を「見たことがある」子供は「楽しみ・計」が75.7%、母親の働く姿を「見たことがある」子供は「楽しみ・計」が72.8%となり、それぞれ親の働く姿を「見たことはない」子供よりも高くなっていった（図21.2、図21.3）。

「子供調査：働く父親は楽しそうか」「子供調査：働く母親は楽しそうか」との関係を見た。父親の働く姿を「楽しそう」と感じている子供は「楽しみ・計」が79.7%、母親の働く姿を「楽しそう」と感じている子供は「楽しみ・計」が78.3%だった。それぞれ親の働く姿を「嫌そう」「わからない」と感じている子供よりも大幅に高くなっており、親が楽しく働く様子が子供にも伝わり、将来働くことへの期待感につながっていることが感じられる（図21.4、図21.5）。

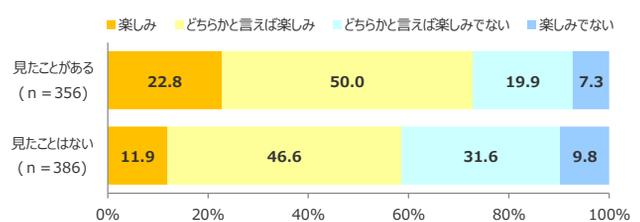
【図21.1】 将来働くことを楽しみに感じているか



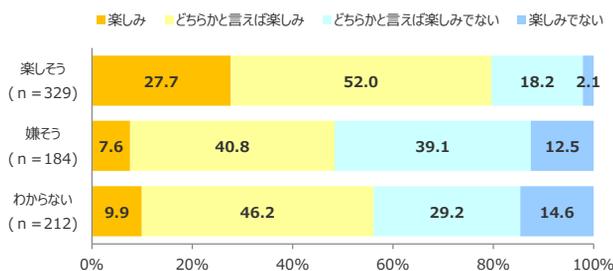
【図21.2】 将来働くことを楽しみに感じているか
：父親の働く姿を見たことがあるか別



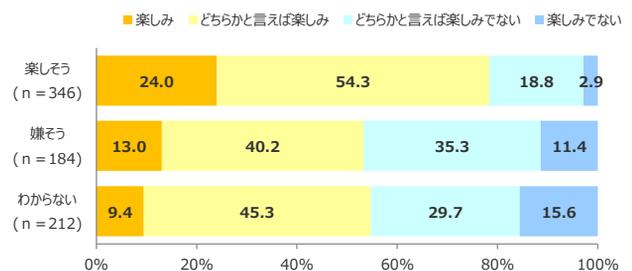
【図21.3】 将来働くことを楽しみに感じているか
：母親の働く姿を見たことがあるか別



【図21.4】 将来働くことを楽しみに感じているか
：働く父親は楽しそうか別



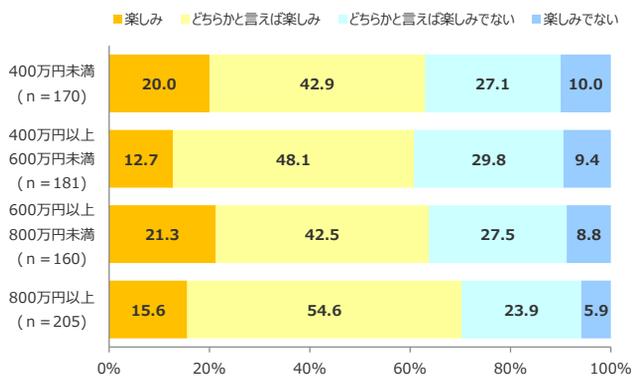
【図21.5】 将来働くことを楽しみに感じているか
：働く母親は楽しそうか別



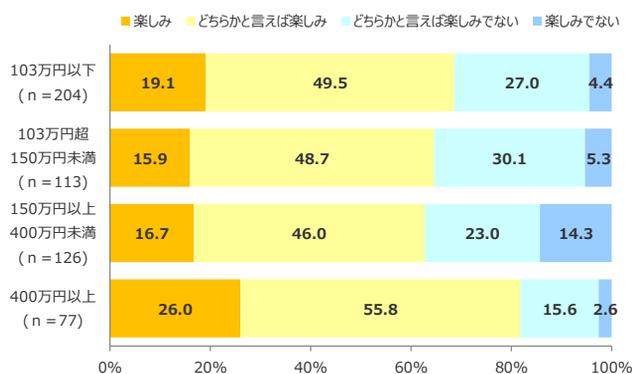
「大人調査：親の収入」との関係を見た。父親および母親の収入が高くなるにつれ、将来は働くことが「楽しみ・計」と回答する子供の割合も概ね高くなっていく（図21.6、図21.7）。

「大人調査：家族揃っての食事回数」との関係を見ると、食事回数が多くなるほど「楽しみ」「どちらかと言えば楽しみ」の合計値も高くなっている（図21.8）。

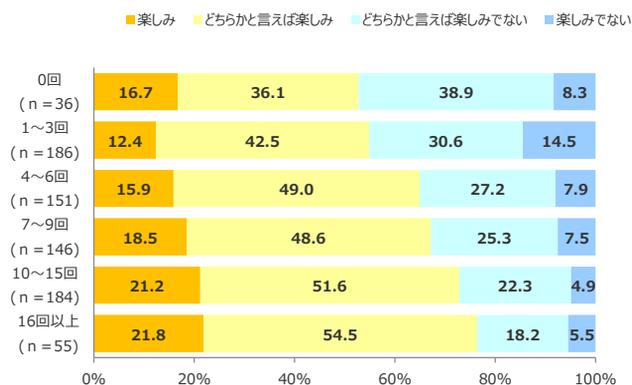
【図21.6】 将来働くことを楽しみに感じているか：父親の年収別



【図21.7】 将来働くことを楽しみに感じているか：母親の年収別



【図21.8】 将来働くことは楽しみか：家族揃っての食事回数別



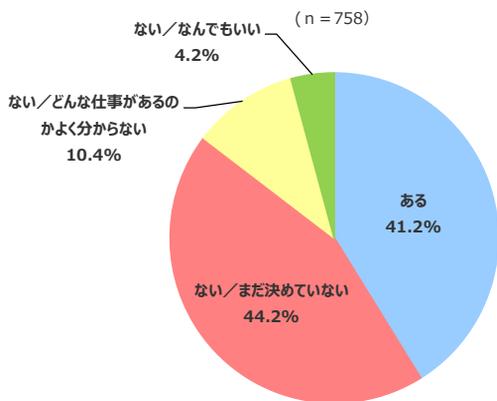
将来の夢はあるか

高校1-3年生の子供に、将来なりたい職業があるかを聞くと、「ある」と回答した子供は41.2%だった（図22.1）。子供の性別で見ると、女子は「ある」と回答した割合が47.4%と男子よりも12ポイント高い（図22.2）。

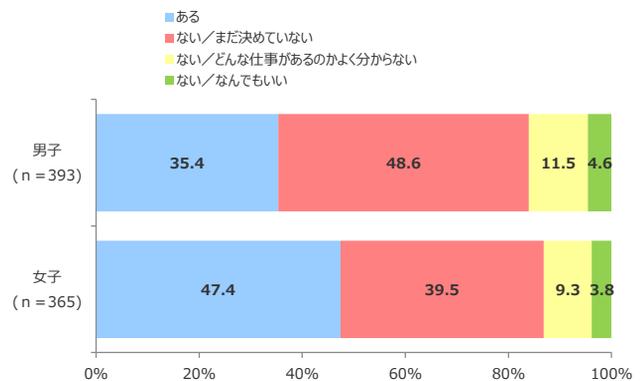
「子供調査：父親の働く姿を見たことがあるか」「子供調査：母親の働く姿を見たことがあるか」との関係を見ると、父親または母親の働く姿を「見たことがある」家庭の子供は、「見たことがない」家庭の子供よりも将来なりたい職業が「ある」割合が大幅に高くなっていた（図22.3、図22.4）。

「大人調査：父親の仕事の充実度」「大人調査：母親の仕事の充実度」との関係を見ると、父親または母親の仕事が「充実している」家庭の子供は、「充実していない」家庭の子供よりも将来なりたい職業が「ある」割合が高くなっていた（図22.5、図22.6）。

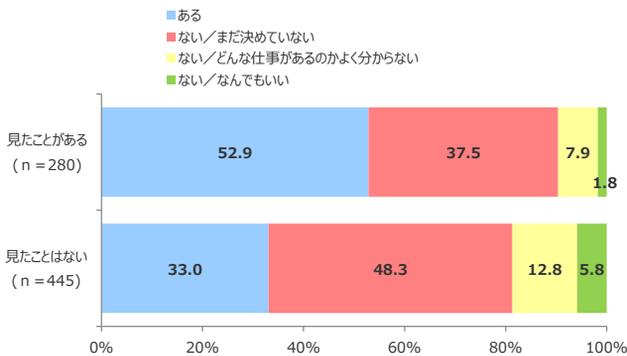
【図22.1】 将来なりたい職業はあるか



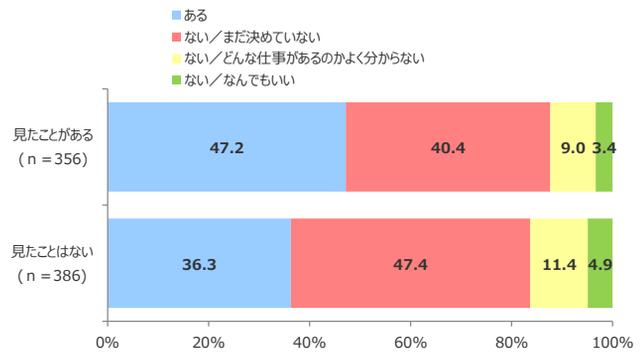
【図22.2】 将来なりたい職業はあるか：子供性別



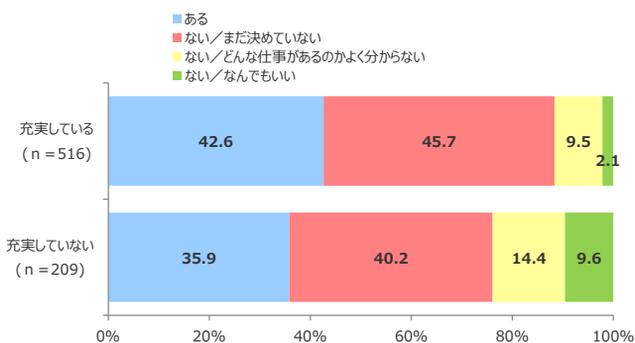
【図22.3】 将来なりたい職業はあるか：父親の働く姿を見たことがあるか別



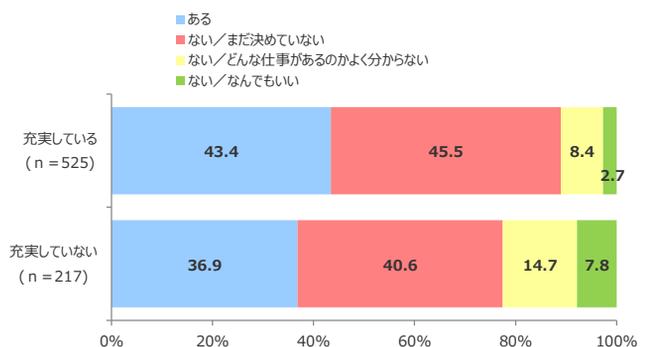
【図22.4】 将来なりたい職業はあるか：母親の働く姿を見たことがあるか別



【図22.5】 将来なりたい職業はあるか：父親の仕事の充実度別

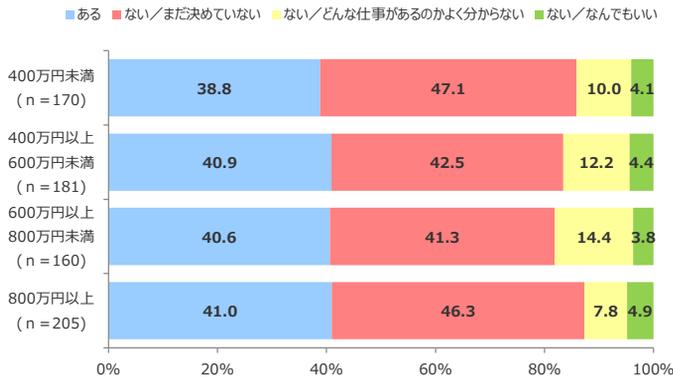


【図22.6】 将来なりたい職業はあるか：母親の仕事の充実度別

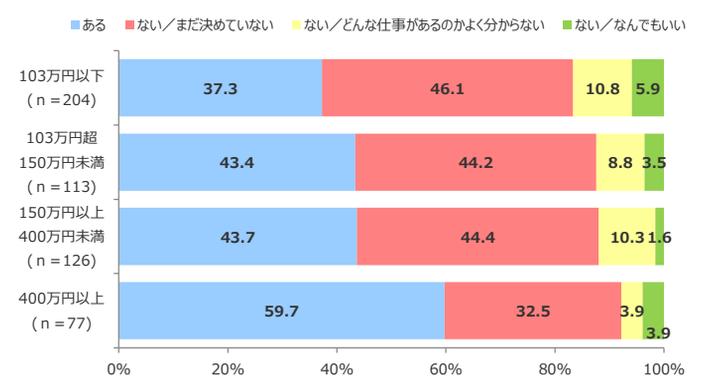


「大人調査：親の年収」との関係を見ると、将来なりたい職業が「ある」割合は、父親の年収によっては大きく変化しない（図22.7）。一方、母親の年収では、年収が高くなるほど将来なりたい職業が「ある」割合が高くなっていった（図22.8）。

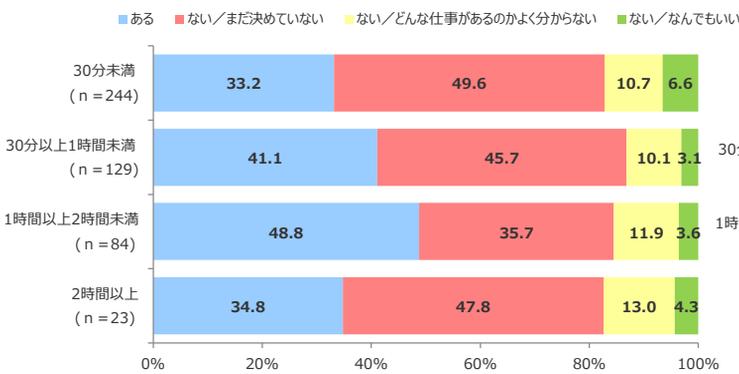
【図22.7】 将来なりたい職業はあるか：父親の年収別



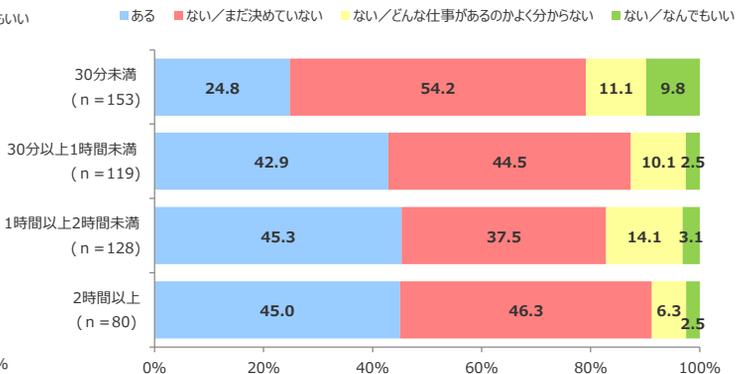
【図22.8】 将来なりたい職業はあるか：母親の年収別



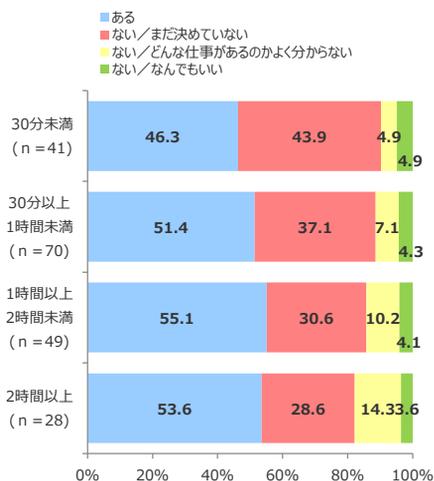
【図22.9】 将来なりたい職業はあるか
：男性有職者の労働日の子供との会話時間別



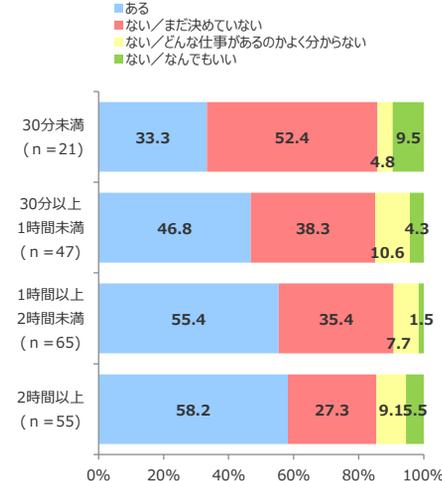
【図22.10】 将来なりたい職業はあるか
：男性有職者の休日の子供との会話時間別



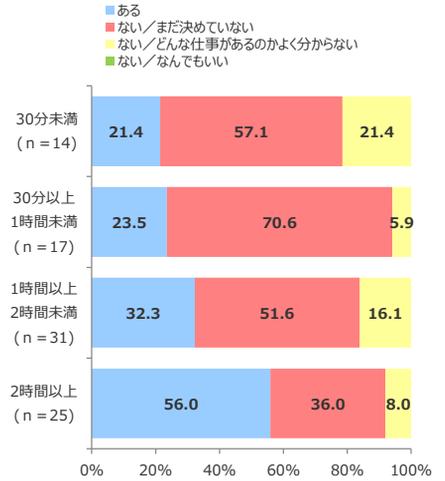
【図22.11】 将来なりたい職業はあるか
：女性有職者の労働日の子供との会話時間別



【図22.12】 将来なりたい職業はあるか
：女性有職者の休日の子供との会話時間別



【図22.13】 将来なりたい職業はあるか
：女性無職者の毎日の子供との会話時間別

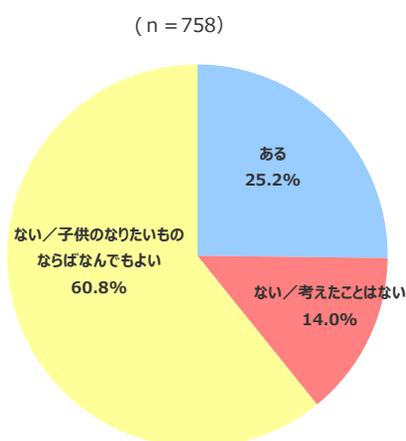


子供に将来なってもらいたい職業

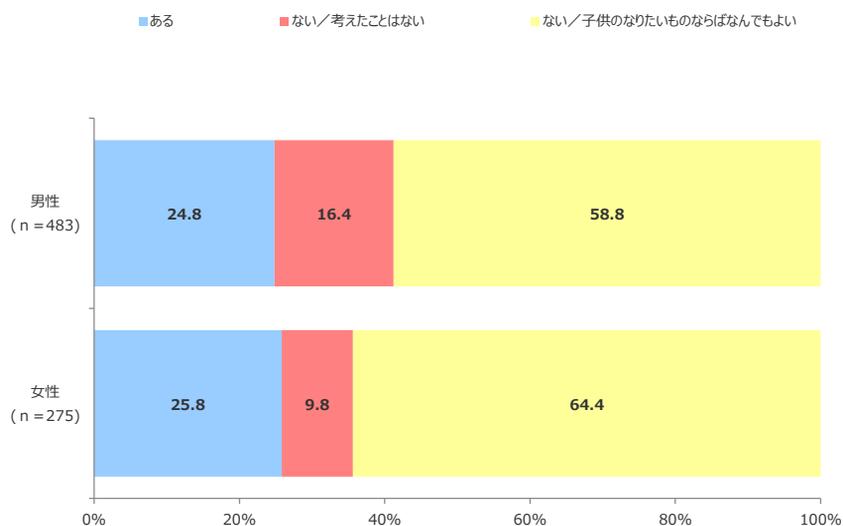
高校1-3年生の子供がいる家庭に、子供に将来なってもらいたい職業はあるか聞いた。「ない／子供のなりたいものならばなんでもよい」と考える親が60.8%を占めていた。一方、「ある」と回答した親も25.2%いた（図23.1）。

大人の性別で見ると、「ない／考えたことはない」は、男性が16.4%なのに対し、女性は9.8%と低いことから、母親の立場である女性の方が子供の将来について気にかけていることがうかがえる（図23.2）。

【図23.1】子供に将来なってもらいたい職業はあるか



【図23.2】子供に将来なってもらいたい職業はあるか：大人性別



将来なりたい職業

将来なりたい職業が「ある」と回答した高校1-3年生の男子に、職業リストの中からあてはまるものを選んでもらった。順位を見ると、1位「教師（小学校、中学校、高等学校）」、2位「整備士・機械エンジニア」、3位「医者」「システムエンジニア・プログラマー」となった（表24.1）。

将来なりたい職業が「ある」と回答した高校1-3年生の女子に、職業リストの中から、あてはまるものを選んでもらった。順位を見ると、1位「教師（小学校、中学校、高等学校）」、2位「保育士・幼稚園教諭」、3位「医者」、4位「理学療法士・作業療法士」となっている（表24.2）。

※「その他」の回答者を除いて集計

【表24.1】将来なりたい職業はあるか：男子ランキング上位

NO	男子ランキング (n = 139)	(%)
1	教師 (小学校、中学校、高等学校)	12.2
2	整備士・機械エンジニア	6.5
3	医者 システムエンジニア・プログラマー	5.8
5	学者・研究者 公務員 ※消防士・警察官・自衛隊等除く 農業・畜産関連	3.6
8	会社員 (事務系) ※銀行員・金融関連職除く 建築士	2.9

【表24.2】将来なりたい職業はあるか：女子ランキング上位

NO	女子ランキング (n = 173)	(%)
1	教師 (小学校、中学校、高等学校)	9.2
2	保育士・幼稚園教諭	8.1
3	医者	6.9
4	理学療法士・作業療法士	5.2
5	看護師 薬剤師	4.6
7	会社員 (事務系) ※銀行員・金融関連職除く	3.5
8	臨床心理士・カウンセラー等	2.3

子供に将来なってほしい職業

子供に将来なってほしい職業が「ある」と回答した者に、職業リストの中からあてはまるものを選んでもらった。

順位を見ると、1位「医者」「公務員※消防士・警察官・自衛隊等除く」、3位「教師（小学校、中学校、高等学校）」、4位「薬剤師」となっている（表25）。

「子供調査：将来なりたい職業はあるか」と比較すると、「医者」や「教師」など子供のランキングと共通の職業もあるものの、「公務員」など、より安定的な職業を望んでいる親もいるようだ。

※「その他」の回答者を除いて集計

【表25】子供に将来なってほしい職業：ランキング上位

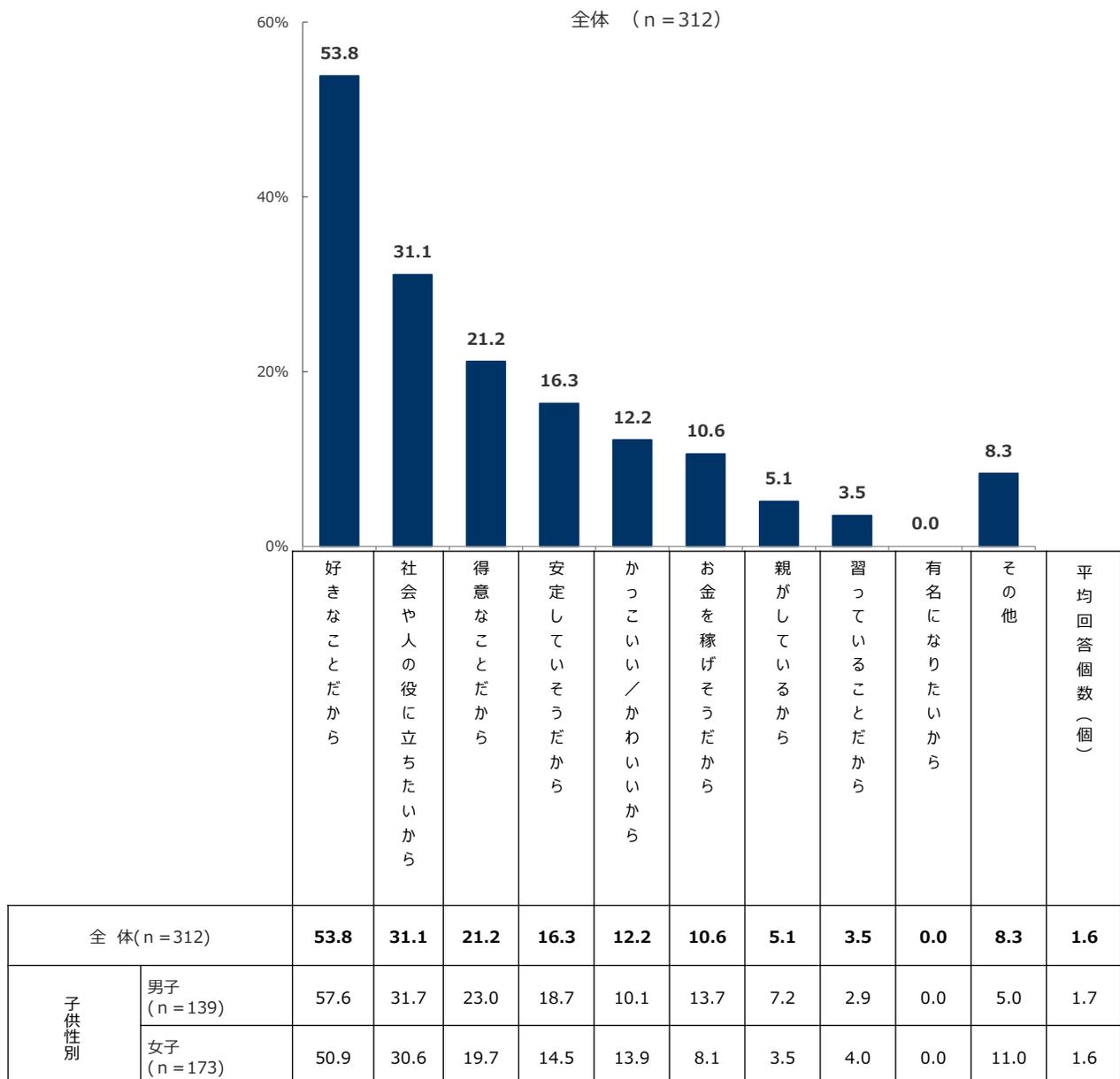
NO	親ランキング (n = 191)	(%)
1	医者 公務員 ※消防士・警察官・自衛隊等除く	13.6
3	教師 (小学校、中学校、高等学校)	6.8
4	薬剤師	5.2
5	学者・研究者 通訳・翻訳	3.7
7	保育士・幼稚園教諭	3.1
8	整備士・機械エンジニア 会社員 (事務系) ※銀行員・金融関連職除く 弁護士・検事・裁判官	2.1

将来その職業になりたい理由

将来なりたい職業が「ある」と回答した高校1-3年生の子供に、なぜその職業に就きたいのか理由を聞くと、1位「好きなことだから」53.8%、2位「社会や人の役に立ちたいから」31.1%、3位「得意なことだから」21.2%だった。

子供の性別で見ると、男子は女子よりも「好きなことだから」が6.7ポイント、「お金を稼げそうだから」が5.6ポイント高く、性別によってモチベーションも異なっていることがわかる（図26）。

【図26】 その職業に将来なりたいと思う理由



将来なりたい職業に就くための努力

将来なりたい職業が「ある」と回答した高校1-3年生の子供に、将来なりたい職業に就くために何か工夫や努力をしているかを聞くと、52.6%の子供が「している」と回答した（図27.1）。

子供の性別で見ると、男女で差は見られなかった（図27.2）。

「子供調査：将来働くことは楽しみか」との関係を見ると、将来働くことを「楽しみ（どちらかと言えば含む）」に感じている子供は、将来なりたい職業に就くために何か工夫や努力を「している」割合が56.7%となり、そうでない子供の2倍以上高くなっていた（図27.3）。

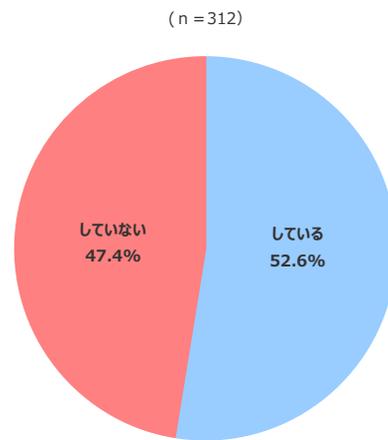
「子供調査：働く父親への憧れ」「子供調査：働く母親への憧れ」との関係を見た。父親および母親に対して「あんな大人になりたい（どちらかと言えば含む）」と感じている子供において、将来なりたい職業に就くために工夫や努力を「している」割合が最も高くなっていた（図27.4、図27.5）。

【自由回答の一部】

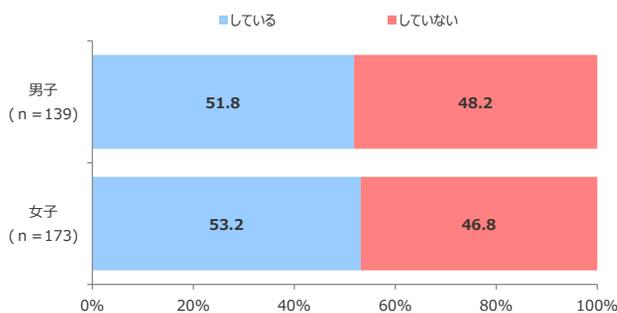
() 内は学年・性別・将来なりたい職業

- 大学の公開授業を聞く、漢字検定や英語検定を受ける。
(高2女子 公務員)
- 工業高校へ進んだ。近々、進学希望校の見学に行く予定。
(高2女子 医療系職種)
- 希望業界の採用の多い大学進学を目指している。
(高3女子 キャビンアテンダント・グラウンドスタッフ)
- 英語力アップとスペイン語の勉強。
(高1男子 会社員<事務系>)

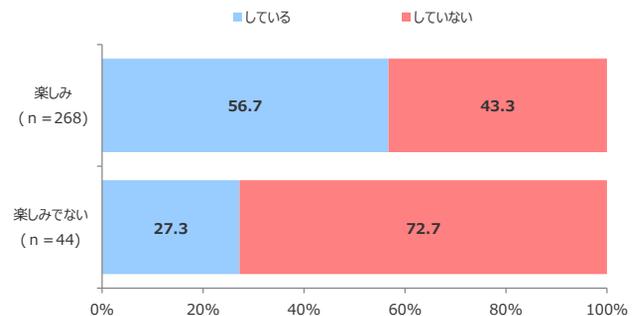
【図27.1】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか



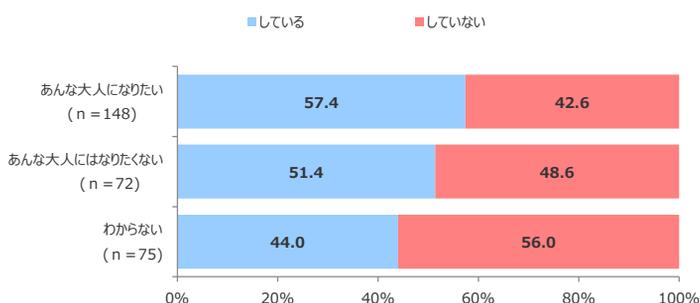
【図27.2】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか：子供性別



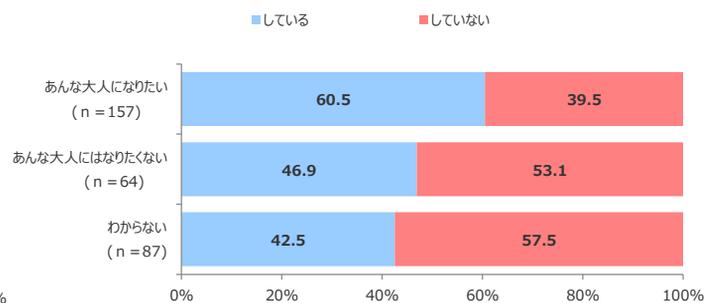
【図27.3】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか：将来働くことが楽しみか別



【図27.4】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか：働く父親への憧れ別



【図27.5】 将来なりたい職業に就くために工夫や努力をしているか：働く母親への憧れ別



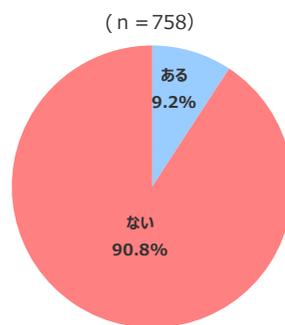
家庭で行っているキャリア教育

高校1-3年生の子供がいる男女に、キャリア教育として家庭で意識して行っていることはあるか聞いた。「ある」という回答は9.2%だった（図28.1）。

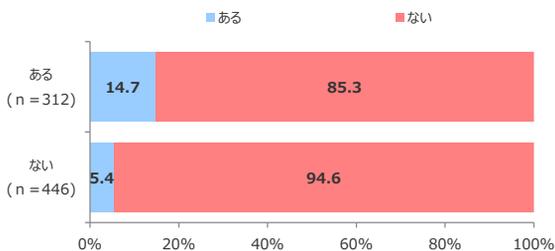
「子供調査：将来の夢はあるか」との関係を見ると、将来の夢が「ある」と回答した子供の家庭では、親がキャリア教育を意識して行っていることが「ある」割合が14.7%と、将来の夢が「ない」子供の家庭の2.7倍高くなっていた（図28.2）。

親の性別では、女性の方がキャリア教育として家庭で意識して行っていることが「ある」割合がやや高い（図28.3）。

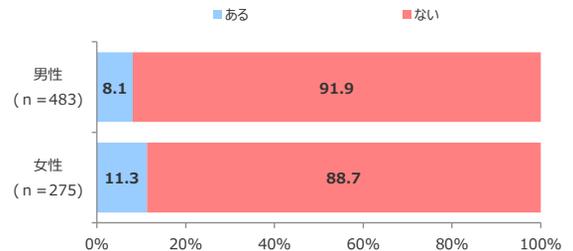
【図28.1】キャリア教育として、家庭で意識して行っていることはあるか



【図28.2】キャリア教育として、家庭で意識して行っていることはあるか
：将来の夢はあるか別



【図28.3】キャリア教育として、家庭で意識して行っていることはあるか
：大人性別



【自由回答の一部】

- 職業観を持たせるため、色々な職業人との会話や面談の機会を増やしています。
- 高卒で就職希望ですので、学校（工業高校）で資格が取れるものは積極的に取得を促しています。子供自身が取りたいと思うものは特にそうです。子供が受験料や費用を気にしているときは、「それは構わないから」と取得を勧めています。
- 自分のやりたいこと(なりたい職業)に向かって、必要な資格や知識を習得してもらう。
- 機会があれば学校の講習会や他校との交流などで、色々な価値観に触れてほしい。
- 子供が興味のあることに関しては、親は協力を惜しまないようにしている。
- 映画館や美術館に行く費用は親が出すようにする。
- 部活を一生懸命にやる、コミュニケーション能力をつけることを頑張ってもらおう。
- 趣味で生活を成り立たせるのは容易ではないことを伝えている。

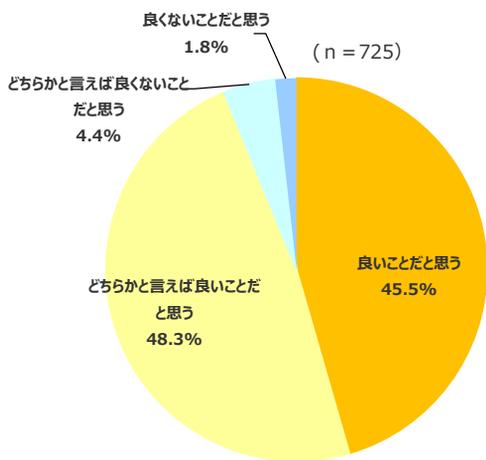
親の働く姿を見せることの是非

高校1-3年生の子供がいる男女に、子供に親の働く姿を見せることは良いことだと思うかを聞いた。

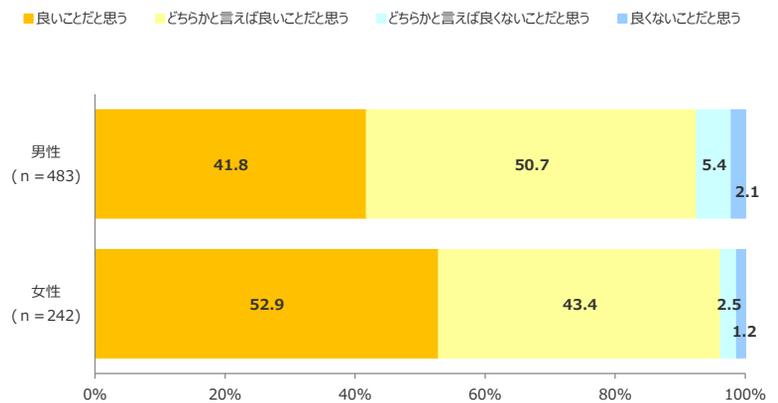
子供に、父親の働く姿を見せることについて「良いことだと思う」が45.5%、「どちらかと言えば良いことだと思う」が48.3%で合わせて93.8%が肯定的に捉えていた（図29.1）。親の性別で見ると「良いことだと思う」の割合は男性41.8%、女性52.9%と女性の方が約10ポイント高くなっており、母親である女性の方が子供に父親の背中を見せることについてより強い肯定感がある（図29.2）。

子供に母親の働く姿を見せることについては、「良いことだと思う」45.6%、「どちらかと言えば良いことだと思う」48.2%で、肯定的な意見が計93.8%に上った（図29.3）。親の性別では、父親の場合と同様に女性の方が「良いことだと思う」の回答割合が高くなっていった（図29.4）。

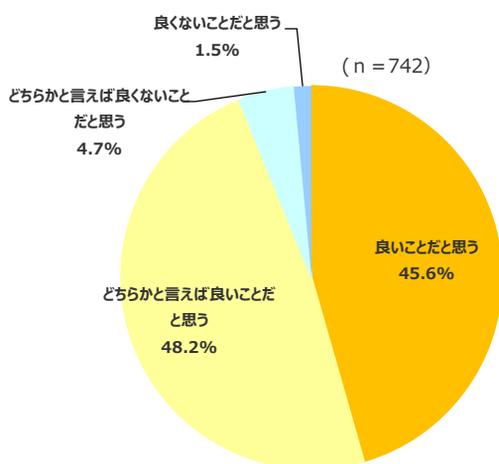
【図29.1】父親の働く姿を見せることは良いことだと思うか



【図29.2】父親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：大人性別



【図29.3】母親の働く姿を見せることは良いことだと思うか



【図29.4】母親の働く姿を見せることは良いことだと思うか：大人性別

